

(2) 北部仏印進駐に関する東京交渉

1796

昭和15年6月26日

在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

仏印総督更迭は援蔣物資禁輸問題や監視員派

遣問題に影響しないとの仏国外務次官内話に

ついて

ポルドー 6月26日後発

本省 6月27日後着

第五七六號

二十六日外務次官ト會談ノ機會ニ往電第五七五號佛領印度總督更迭ノ事情ヲ尋ネタルニ同次官ハ右ハ内政上ノ理由ニ依リ行ハレタルモノニテ對外政策ニ何等變更無ク從テ印支經由武器輸送禁止問題及監視員派遣問題ニ關シ過日本邦側ニ與ヘタル約束ニハ何等變更無キ次第ナリ本件ニ關シテハ「アンリー」大使ニモ其ノ趣旨日本政府ニ通報方訓令シ度ク考ヘ居レリト語り居リタリ(午後八時)

西ニ轉電セリ

西ヨリ英ニ轉電アリタシ

1797

昭和15年6月27日

在ハノイ鈴木総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

カトルー仏印總督の対日態度につき觀測報告

ハノイ 6月27日後発

本省 6月28日前着

第一〇三號

最近當領ニ於テ支那國境ノ防備ヲ嚴重ニスルト共ニ總督ヨリ當市海防等ノ住民ニ對シ事務營業等ノ爲居住ヲ必要トスル者以外ノ者ハ成ルヘク田舎ニ撤退スヘキ旨ノ布告ヲ發シタルカ(同布告ニ基キ田舎又ハ西貢方面ニ撤退スル者相當數ニ達セルカ如シ)右ハ我方ノ對支攻撃ノ積極化ニ伴ヒ支那避難民又ハ逃亡兵等ニ備フルモノナルカ他方安南人ノ日本襲來ノ輿論ニモ鑑ミ或ル程度帝國ニ對シ備ヘ居ルニハアラサルカト思ハルル節アリ即チ往電第九九號總督ト本官トノ會見ノ節總督ヨリ自分ハ日本トノ經濟的接近ヲ計リ日本軍ト紛糾ヲ見ルカ如キコトハ出來得ル限り避ケタキモ日本カ無理強ヒスルカ如キ態度ニ出ツルコトアラハ武人トシテ泣寢入リスルコト能ハストノ趣旨ヲ言葉ハ婉曲ナレトモ言明シタルコトアルモ右ハ本邦ニ於ケル近衛公ノ一政黨組織

説ヤ極右論者ノ言論ニ鑑ミ本邦カ果シテ歐洲戰爭不介入ヲ固執スヘキヤ佛印ニ對シ何等領土的野心ヲ有セサルヤニ多少ノ疑問ヲ挾ミ萬一ノ場合ニ備フル爲ナリト推察セラルル尤モ其ノ際本官ヨリ本邦トシテハ思ヒモ寄ラサルコトニシテ極右論者ノ言ノ如キハ信スヘキモノニアラサル旨篤ト説明シ置ケリ

往電第一〇一號ノ如ク先方トシテハ出來得ル丈ケ好意ヲ示サントシ居ルヤニ思考セラルルニ付近ク到着ノ調査員一行トモ協議シ圓滿ニ事務ヲ遂行スル様善處スヘシ軍側ヘ轉報シ關係公館ヘ然ルヘク轉電アリタシ

1798

昭和15年7月2日  
在ハノイ鈴木總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

新仏印總督の就任時期に関するカトルー総督  
の内話について

ハノイ 7月2日後發  
本省 7月2日夜着

第一〇八號

一日總督官邸ニ於ケル西原少將歡迎晚餐會ニ於テ本官ヨリ

總督ニ對シ總督ノ更迭問題ニ言及シ折角御呢懇ヲ願ヒタル貴總督カ殊ニ調査員到着ノ際更迭セラルルコトハ誠ニ遺憾トスル所ナルカ其ノ更迭時期ハ何時頃ナルヘキヤト尋ネタルニ總督ハ未タ判然分明シ居ラス實ヲ云ヘハ後任「ドグー」司令官ニ於テ總督トシテ佛領印度ヲ統治シ得ルト確信シタル時カ更迭ノ時期ナルヘシト答ヘタルカ右ニ依レハ茲一月間位ハ現總督カ相變ラス就任シ居ルモノト思ハル「ドグー」司令官カ總督トナルコトヲ夢想ダモセサリシコトニモアリ他方海軍トシテ「ボルドー」政府トノ關係ヲ考慮シ居ルカ爲ナリト思考セラルル假令右更迭アリトスルモ對本邦關係ニハ影響無キモノノ如ク觀測セラル

尙其ノ際本官ヨリ夫レトナク本邦盤谷間航空路ノ佛印通過ニ付話シタルニ總督ハ何等躊躇スル所ナク本官ヨリ書面ニテ申入ルルニ於テハ直ニ許可スヘシト明言セリ就テハ右様取計ヒタキニ付差支ヘ無キヤ折返シ御回電相成度シ

「タイ」、西貢ニ轉電セリ  
佛ニ轉電アリタシ

昭和15年7月5日

在ハノイ鈴木總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

## 仏印官民の対日態度につき観測報告

ハノイ 7月5日後発

本省 7月6日前着

## 第一一五號(極秘)

佛軍敗戦以來佛領印度總督カ對日政策ヲ變更シタルコトハ十七日以來ノ國境封鎖ニテモ明カナルカ右動向ヲ明確ニ把握スル爲ニハ何等カノ便宜ト思考セラルルニ付當國ニ於ケル官邊筋及民間ノ輿論ヲ左ノ通り申進ス

一、先ツ總督ハ本官ニ對シ此ノ親日政策ハ余カ決定シ強要シタルモノニシテ(Tai ngung et usily cette politique)余カ離任スル迄ニハ何トカ目鼻ヲ作ルヘク後任ト雖此ノ政策ヲ踏襲スヘキコト勿論ナリト言明シタルコトアルモ右ハ單ナル才座ナリノ言トハ受取レス現在ノ狀況ニ於テ帝國カ佛領印度ノ現状維持ヲ重ンスルニ於テハ總督トシテハ誠意ヲ以テ本邦トノ接近ヲ計ラント企圖シ居ルモノト観測セラル

二、官邊筋ニテハ今回佛軍敗戦ノ原因ハ遠クハ人民戦線ニ在

ルハ勿論ナルカ近因ハ英國ノ援助ノ足ラサリシニアリトテ漸ク英國非難ノ聲起リツツアル處本五日英佛艦隊衝突ノ報傳ヘラルルヤ調査員一行ト同行シ來レル「テイエボ」少佐ノ如キハ本官ニ對シ冗談トハ云ヒ乍ラステハ佛國ハ獨逸ト同盟セサルヲ得サルヘシトサヘ言明セル位ナリ斯ノ如ク英國非難ノ聲起ルト共ニ佛領印度ノ獨立ヲ保全スル爲ニハ結局日本ト手ヲ握ル外ナシト信スルニ至レルモノ漸ク多カラントス從テ調査員一行ノ便宜供與ニ遺漏ナカラントヲ期シ居ルヤニ見受ケラル

三、佛人民間ニ於テモ右傾向ハ著シク曾テハ支那向ケ武器「カミオン」輸出等ニ從事シ居リタリト思ハルル人物スラ日本トノ聯絡接近ヲ希望シ來レルカ如ク支那ニ關係ナキ一商人ノ如キハ本官ニ對シ右ノ如キ二、三ノ支那關係商側ノ爲全體カ國境閉鎖ノ惡影響ヲ蒙ルコトハ忍ビ得サル所ニシテ若シ日本カ佛印ト眞ニ經濟接近ヲ希望スルニ於テハ吾人ハ喜ンテ之ニ應スヘシト云ヘリ

四、安南人ハ元來無氣力ニシテ獨立シ得サル國民ナルモ日本最良ナルコトニ付テハ屢次報告ノ通りニシテ最近ノ如キ知識階級ニ於テハ蔣政權カ漸ク佛印ヨリ閉メ出サレント

シ之ニ反感ヲ持ツニ至レリト云ヒ居レリ

以上ノ如キ次第ナルヲ以テ西原少將ニ於テモ調査員一行ニ對シ輕舉妄動ヲ避クヘク篤ト訓戒シ居ル有様ナルカ本官ノ意見モ全ク同様ニシテ折角先方ニテ誠意ヲ示シツツアル今日徒ニ佛印ト事ヲ構ヘルカ如キコトハ少クトモ目下ノ所機宜ヲ得タルモノトハ信シ得ス

1800

昭和15年7月5日

在英国重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

中国および仏印における仏国権益の処分につき

迅速かつ周密なる措置を要すべき旨意見具申

ロンドン 7月5日後発

本省 7月6日夜着

第一一八〇號(至急、館長符號扱)

一、佛國ハ英國ニ對シ外交關係ヲ斷絶シ進ンテ獨伊ト同調シ對英宣戰ニモ及ヒ兼ネマシキ氣勢ナルカ(要スルニ現「ベタン」政府ハ「ファツシヨ」勢力ニシテ佛國ニ於テハ革命進行中ト認め得ヘシ)此ノ際佛國ノ支那、印度支那等ニ於ケル權益ノ處分ニ付テハ帝國トシテ迅速且周密

ノ措置ヲ要スヘシ

二、支那及印度支那ニ於テハ佛國軍隊及艦隊アリ特ニ艦隊ニ對シテハ佛國政府ハ英國軍艦及商船ニ對シ敵對行爲ヲ命シ居ル次第ニ付東亞方面ノ形勢ニモ直ニ反映スヘク(新嘉坡電報ハ日本ノ態度ヲ顧慮シテ印度支那及艦隊ハ現状維持ノ方針ト報シ居ルモ右ハ何等根本ノ形勢ヲ左右スルヲ得サルハ言フ迄モナシ)茲ニ帝國政府トシテハ至急左ノ措置ヲ執ラレテハ如何

(一)東亞、南洋ニ戰火ノ及フコトヲ避クル爲日本ハ必要アラハ實力ヲ以テ之ヲ阻止スルコトヲ宣言シ之ニ關シ必要ノ措置ヲ執ルコト

(二)支那方面ニアル武力ノ撤退ヲ再ヒ要求シ特ニ軍艦ハ是等ノ海面ニ於テ敵對行爲ヲ執ラシメサルコトヲ宣言又ハ通告シ

(三)日本ハ東亞方面平和ノ受任者「トラセイイー」安定勢力トシテ何時ニテモ必要ナル行動ヲ執ルコトヲ政治的ニ更ニ一般ニ明カニスルコト

1801

昭和15年7月5日

在英國重光大使より  
有田外務大臣宛(電報)

欧州情勢に鑑み英米との対立を避け中国や仏  
印における仏国權益処理を優先方意見具申

ロンドン 7月5日後発

本省 7月6日夜着

(館長符號、極秘)

昨今ノ形勢ニ依レハ佛國ノ向背ハ逆睹スヘカラス若シ對英  
宣戰迄行ケハ支那ニ於ケル佛國ノ權益及印度支那ノ地位ハ  
非常ニ複雑トナルヘク先ツ之ヲ防止スルノ手段必要ナルニ  
付往電第一一八〇號ノ手段ヲ執ルノ要アリト思考スル處更  
ニ印度支那自體モ適當ノ名目(或ハ將來ノ獨立等モ考ヘ)ヲ  
以テ日本ニ於テ「保護預リ」ヲ爲スノ已ムヲ得サル破目ト  
ナルヘク或ハ遲滯無ク何等カノ手段ヲ講スルノ要アルヘシ  
次ニ帝國ノ行動ハ對米關係(及對蘇關係)ヲモ考慮シ各個處  
分ノ外交作戰ヲ要スヘシ目下ノ機微ナル形勢ニ於テ一時ニ  
英、米及其ノ他ヲ敵ニスルカ如キ危險ヲ極力避ケ香港ノ壓  
迫ノ如キハ次ニ廻シ先ツ支那及印度支那ニ於ケル佛國ノ勢  
力ヲ驅逐スルコトニ集中シ其ノ間ハ對英米關係ニ付テハ餘

リ火花ヲ散ラサス少シ歐洲ニ於ケル戦局及一般ノ形勢ノ推  
移ヲ見送ルコト得策ト思ハル尤モ英國ニ對スル機會モ來ル  
ヘク外務省トシテハ英國トノ關係ハ勿論蘭印問題モ徹底的  
ニ考ヘ置クノ要アルハ申迄モナシ

~~~~~

1802

昭和15年7月9日

在ハノイ鈴木総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

西原監視団と仏印当局との交渉状況につき報告

ハノイ 7月9日後発

本省 7月9日夜着

第一二三號(館長符號抜、部外極秘)

與謝野ヨリ

調査員一行當地着以來ノ佛印側トノ交渉狀況、當地ノ空氣  
乃至西原委員長ノ意嚮等大本營電ニテハ簡ニ過キ御諒解ニ  
難カルヘキ點モアルヘキカト存シ補修旁御參考迄左ノ通り  
(軍側ニテ未報告ノ點モアリ本電取扱ヒ御留意願度シ)  
一、佛印側ハ總督、軍司令官等ヨリ繰返シ誠意ヲ以テ對支輸  
出遮斷ヲ實行スヘキ旨ヲ確言シ各監視所ヘノ監視員派遣  
ニ當リテモ總ユル便宜ヲ供シ(T'ien Yen ノ如キハ支那人

周知ナレハ經營上困難多ク先方ニ多大ノ難色アリタリ）タル外鎮南關國境ニ到達セル我方部隊ト當方トノ聯絡ニハ難キヲ忍ヒテ參謀將校ノ國境橫斷來往、當地南寧間飛行機往復慰問品名義ニ依ル國境部隊ヘノ物資補給等ヲ許容シ只管誠意ヲ示スニ努メ居ル爲委員長ニ於テモ先方好意ニ打タレタル感アリ此ノ際先方ノ嫌フコトヲ押付クルハ可成避ケントスル意嚮ト認メラル

二、又監視所ヨリノ報告ハ何レモ輸送遮斷ノ實施セラレ居ル旨ヲ傳ヘ居ル一方委員長ヨリ各員ニ對シ行動ノ慎重ナルヲ期スヘキ旨嚴重ニ訓達シ居リ不慮ノ事態ヲ惹起スルノ惧ハ調査團ニ關スル限り大體ナキモノト斷シ得ル狀況ナリ

三、御承知ノ通り佛印側ハ不取敢今後一箇月間支那ヨリノ輸入ニ付テモ國境ヲ閉鎖スヘキ旨ヲ申出テタル處右ハ必スシモ額面通りニ受取り得ルヤ疑問ナルカ佛印側カ支那側所有ノ「タングステン」、「アンチモニー」ノ滞荷カ米國側ニ賣却セラルルヲ防ク爲二代償トシテ我方ニ示シタル「ヂエスチユア」ナルヘク又佛印側カ輸入ヲ止メストモ支那側カ何等カノ措置ニ出ツル形勢ニ在リタルヤモ計ラ

レサルモ右申出ニ當リ總督ハ本官ニ對シ一應一箇月ト期限ヲ附スル理由ヲ頻リニ説明スルト共二日、佛印間ニ同盟關係設定セラルレハ永久的閉鎖ヲ爲スヘキハ勿論ナリト述ヘ居タリ

其ノ他目下先方ト交渉中ナルモノノ内(イ)廣東ト當地トノ軍用機ニ依ル聯絡ハ日佛機交互使用(西原少將ノ部下カ廣東ニ赴ク際ハ佛國機ヲ使用ス)ニ依リ異議ナキ旨(ロ)廣東、海防間ノ海底電線敷設モ主義上又(ハ)日「タイ」聯絡航空機ノ當地通過モ夫々異議ナキ旨ノ聲明アリ結局今後ノ重要問題ハ佛印内ニ在ル支那向荷物ノ買上問題ナルヘシ

佛印側カ對蔣介石防守同盟ヲ提議シ來リタルハ御承知ノコトト存スル處更ニ六日總督ハ本官等ニ對シ支那側貨物ヲ徵發シ日本側ニ賣却スルカ爲ニハ日本側ヨリモ佛印側カ安心スル様保障ヲ與ヘラレタク右協定ハ素ヨリ兩國政府間ノ外交の折衝ニ依ルヘキモノナルモ日本側ヨリ佛印ノ領土保全ヲ保障セラルルニ於テハ自分トシテモ總テニ日本側ニ援助ヲ與ヘ易クナル點ヲ了解アリタシト述ヘ右ヲ覺書トシテ委員長ニ手交方依頼セリ

抑々佛印側ノ眞意ハ日本側ノ申出ニ對シ出來得ル限り之

ヲ實行セントスルモ日本側ヨリ何等ノ保障ナク不安ナル  
狀況ニ變ナキヲ以テ日本側ヨリ如何ナル形式ニモセヨ佛  
印ノ領土權ヲ侵ス意嚮ナキ旨ノ言質ヲ得タキ所ニ存シ右  
ノ場合ニハ蔣介石側ニ對スル防守同盟(我方ノ軍隊通過  
ヲモ實現シ得ヘシ)トナスモ可ナリト考ヘ居ルモノナリ  
ト認メラル

右佛印側ノ申出ニ對シ西原委員長ハ中央ヨリ色良キ回訓來  
ルヘキヲ期待シ居ラルル模様ナルカ從來ノ對獨伊申入ノ經  
緯最近ノ國際情勢竝ニ客月二十九日ノ貴大臣聲明將來ノ我  
南方政策等ニ鑑ミ今日佛印ノ領土尊重ヲ約スルカ如キハ面  
白カラサルノミナラス事實上モ國內強硬論等ノ爲多大ノ困  
難アルヘシト愚考スル次第ナリ然シ乍ラ一方當地ノ狀況ハ  
先方ヨリ「出來得ル限りノコトハ致スヘキモ日本側モ領土  
ヲ得ラレントスルニハ非サルヘシ」ト切口上ニテ申出テラ  
レ居ル狀態ニ在ルヲ以テ一應先方ヲ納得セシムルト共ニ對  
蔣援助打切りニ軍事的便宜供與ニ止マラス我方トノ經濟提  
携増進ニモ貢獻シ他方我方將來ノ進出ヲ拘束セサル言ハハ  
蟲ノ良キ「フオウミユラ」アラハ必スシモ不可ナカルヘシ  
トモ考ヘラル

御考究中ノコトト在スルモ爲念

1803 昭和15年7月10日  
在ハノイ鈴木總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 防守同盟に関するカトルー總督の意向報告

ハノイ 7月10日後発  
本省 7月10日夜着

第一二四號(館長符號扱、部外極秘)

與謝野ヨリ

往電第一二三號ニ關シ

一、九日委員長ト共ニ總督ニ會見シ防守同盟ニ關スル先方意  
嚮ヲ確メ得タルカ先方ハ軍隊ノ佛印内通過ノ如キハ半永  
久的占領ノ形式トナルトテ絶對ニ承諾セサルモノト認メ  
ラレタルニ付冒頭往電<sup>四</sup>、括弧内ノ點訂正ス  
二、抑々同盟問題カ何レノ側ヨリ出テタルヤハ不明ニテ或ハ  
例ノ手ナランカトモ思考セラルル處本官歸朝ノ上面陳致  
度キコト多々アリ後任御物色中ノ趣ナルカ成可ク速ニ御  
決定方御配慮ヲ請フ

1804

昭和15年7月10日

在ハノイ鈴木総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

中国向け滞貨処分への協力に関するカトルー

総督の好意的発言振りについて

ハノイ 7月10日後発

本省 7月11日前着

第一二七號(極秘)

往電第一一九號ニ關シ

九日總督ニ面會貴電第九〇號ノ趣旨ヲ篤ト申入レタル處總督ハ滞荷處理ノ爲ニ來レル宋子良等六名ノ支那要人ニ立退方要求シタル程ニテ佛印トシテハ日本ニ對シ總ユル好意ヲ示シ居ル積リナリ若シ日本ニ於テ佛印攻略ノ如キ措置ニ出テス現狀維持ヲ守ルニ於テハ尙一層協力スルニ吝ナララスト累々説明スル所アリ

思フニ總督トシテハ本邦ト提携スルニ非スンハ佛印ノ獨立ヲ保チ得スト思考シ居リ其ノ現ハレカ今回ノ調査員ニ對スル衷心ヨリノ歡迎トナリ居ルモノト察セララルル次第ナルヲ以テ此ノ際ハ本邦ニ於テモ極端論ヲ避ケ佛印ト經濟的提携ヲ爲ス方針ニテ進マレンコト適當ナリト愚考セララル

1805

昭和15年7月13日

有田外務大臣より  
在ハノイ鈴木総領事宛(電報)

防守同盟に関するカトルー総督提議の経緯に

つき詳細報告方訓令

本省 7月13日後10時30分発

第一二三號(極秘、至急、館長符號扱)

最近數次ニ亘リ西原少將ヨリ參謀本部ニ對シ佛印領土保全及防守同盟問題等ニ關スル總督トノ會談ノ結果ヲ電報越タル處當方ニ於テハ其ノ實情克ク判明セザルニ付右會談ニ立會ハレタル貴官又ハ與謝野ヨリ本件當初ヨリノ経緯、殊ニ佛印側ノ表示セル意向貴方觀測等御遠慮ナク詳細大至急回電アリ度シ(軍側ト協議済)

1806

昭和15年7月14日

在ハノイ鈴木総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

防守同盟に関するカトルー総督提議の経緯に

つき報告

ハノイ 7月14日後発

本省 7月15日前着

第一三四號(至急、極祕、館長符號扱)

貴電第一二三號ニ關シ(佛印問題ニ關スル件)

與謝野ヨリ

一、本件同盟問題ノ當初ノ經緯ニ付本官ニ於テモ承知セス連絡將校トシテ西原少將ニ附添ヒ居ル有力佛國武官「チエボウ」少佐ト少將トノ間ニ意見交換ノ結果カ總督ヨリ提案トナリタルモノニアラスヤト察セラルルモ佛印側カ領土保障ヲ熱望シ居ルニ鑑ミ總督側ヨリ提案反對シタルモノナルヤモ知レス五日少將ヨリ佛側提案ノ次第ヲ承知シタル本官ハ日本側カ領土尊重ヲ約シ佛印側カ軍事の協力ヲ與フル趣旨ノ防守同盟ト解シ日本ノ佛印通過モ問題無キヤニ了解セリ

二、六日柳澤、小池及(一字不明)ニ依リ總督ヲ訪問セルニ支那ヨリノ佛印向ケ輸送停止問題其ノ他ニ觸レタル後總督ハ滯貨問題ニ關シ日本カ佛印ニ對シ何等カノ保障ヲ與ヘラルルレハ出來得ル限リ協力スヘキ旨ヲ豫メ覺書ヲ提出セルカ本官ハ右防守同盟問題アリタルニ依リ右保障トハ同盟協定ニ依ル保障ト反駁シ置キタリ

三、九日西原少將及本官總督ト會談ノ結果先方ノ意嚮ハ稍明

確トナリ對蔣防守同盟トハ

(イ)日本側ハ佛印及附屬島嶼ノ領土尊重ヲ約シ

(ロ)佛印側ハ國境外ニアル日本軍ニ對スル佛印領土内ヨリ

スル補給負傷兵ノ通過送還國境ニ佛印軍ヲ集結シテ日

本軍ノ側面ヲ援護スル等ノ方法ニ依リ日本側ニ協力ス

ヘキコト

等ヲ骨子トスルモノニテ總督ハ右(イ)附屬島嶼中ニハ西沙島新南群島ヲ含ムコト佛側ハ支那事變終了後ハ日本軍ノ海南島撤退ヲ希望スル旨ヲ附言シ且日本軍ノ領土内通過及空軍基地提供ハ總督トシテナシ得サル旨ヲ明カニシ且本件ハ雙方意見一致スル場合正式ニハ兩國政府間ノ正式交渉ニ俟ツヘキモノナルコトヲ述ヘタリ

四、(2) 十一日廣東軍參謀長佐藤大佐來着本官同道シテ總督ヲ訪問シ軍司令官ヨリノ軍刀ヲ贈呈シ翌十二日總督ハ午餐會ヲ催シ食後佐藤大佐ノ希望ニ依リ西原少將、佐藤大佐及本官ノ三名總督ト懇談シタリ右席上佐藤大佐ヨリ軍ノ作戰ノ必要上佛印内軍隊通過ノ必要ナル旨及空軍基地ノ提供ヲ希望スル旨ヲ縷々説明セルモ總督遂ニ納得セス但シ右席上總督ヨリ日本ノ希望スル保障トハ同盟交渉ノ結果

ハ別トシテ不取敢日本政府カ外務大臣聲明ニ依リ佛印ノ領土ノ現狀維持ヲ尊重スル旨ヲ明カニセラルルコトヲ指シ前述<sup>(二)</sup>ノ滯貨問題ニ關聯シ目下海防ニ萬國丸入港シ居リ佛印側カ「タングステン」ヲ提供シ同船ニ積込ム計畫ニハ(不明)ニ於テ右聲明ヲ必要トスル旨ヲ繰返シ居タルカ結局聲明ヨリモ寧ロ「アンリー」大使ニ對シ有田大臣ヨリ署名セル祕密書翰ヲ與ヘラルレハ結構ナリト述ヘ軍側ニテ政府ニ取次クヘキ旨ヲ約シ佛側ノ意嚮モ(先方モ同シ提案ヲ有シ居タルニ非ス)略明瞭トナレリ

五、十三日佐藤大佐ハ佛側提供ノ飛行機ニテ國境方面視察後暇乞ヒノ爲本官ト共ニ總督ヲ往訪ノ上視察ノ結果領内通過カ許容セラルレハ作戰可能ノ確信ヲ得タリトテ總督說得ニ努メタルモ總督ハ自己ノ權限ニテハ承諾シ得ストナシ雙方ノ意嚮ヲ明瞭ニナシ得タル效果ヲ殘シ別レタリ尙總督ハ雲南攻撃ノ困難ナルヲ說キ龍雲ニ對スル工作ニハ援助スヘキ旨ヲ述ヘタリ

六、以上ニテ御了察ノ如ク防守同盟ト云フモ軍隊ノ通過等ハ殆ト望ミナキモノト思考セラルル處本官トシテハ本件同盟云々ニハ相當ノ疑問ナキ能ハサルモ國際情勢ニハ殆ト

聾座敷トイフヘキ佛印ニアリテ諸般ノ見地ヨリ意見ヲ具申スルコト困難ニ付テハ大局ヨリ御判斷相成ルコト肝要ト存ス

七、尙佐藤大佐本日出發近日上京ノ筈ナルカ陸海軍トモ中央ヨリ連絡ニ部員出張中ニテ外務側ノミ連絡ナキニ付場合ニ依リテハ本官一應歸朝致度ト考ヘ居レリ

1807

昭和15年7月15日

在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日仏間の政治・經濟問題に関する大局的協議は  
ヴィシーで行いたいと仏国外相要望について

ヴィシー 7月15日後発  
本省 7月17日夜着

第六四〇號(極秘)

十五日外務大臣ノ求メニ依リ往訪セル處同大臣ハ過般西原少將「カトル」總督訪問ノ際談論ハスミ日佛政治同盟關係迄ニ及ヒタル趣ナルカ同少將ハ物資輸送禁絶監督ノ爲ニ派遣セラレタル者ト了解シ居レリ佛印總督モ右ノ如キ政治問題ヲ討議スル權限ハ有シ居ラサルヲ以テ雙方トモ行キ過

ノ感アリ尤モ自分ハ右ニ對シ不滿ヲ云フ意思ハ全然無ク寧  
口其ノ程度迄兩者カ胸襟ヲ開キテ語り合ヒタルコトヲ喜ヒ  
居ル次第ナルカ元々斯ル話合フ外交交渉ニ依リテ致度シト  
存スル處御承知ノ通り自分ハ過去十五年以來理屈ヲ超越シ  
タル實際ノ仕事ニ從事シ來リ特ニ印支銀行ノ關係ヨリ極東  
ニ關シテハ日本ト相提携スルノ外無シトノ說ヲ持シ屢々外  
務省、植民省ト争ヒシ程ナリ然ルニ日佛ノ交渉ハ此ノ兩三  
年來實際ヲ離レタル理論鬭争ノ爲徒ニ紛糾ヲ重ネ來レリ今  
日ハ將ニ此ノ紛糾ヲホコス爲虛心擔懷ニ語り合フヘキ時機  
ニ到達セリト考ヘ居レリ先ツ其ノ一ハ佛印ト日本トノ間ノ  
有無相通スルノ經濟關係ヲ益々密接ニスルコトニシテ其ノ  
二ハ政治關係ノ緊密化例ヘハ先般約束セル雲南鐵道ニ依ル  
武器輸送禁絶モ之カ爲ニ支那側ヨリ怨ヲ買ヒ鐵道會社トシ  
テモ損失ヲ忍ヘル次第ニテ一大英斷ヲ以テ實行セリ素ヨリ  
支那ノ怨ミヲ買フコトハ敢テ之ヲ意トセス極東ニ於テハ日  
本ノミト話合ヒ得ヘシトノ自分ノ信念ヲ貫キタキ希望ナル  
カ何時迄モ無制限ニ鐵道側ニ其ノ損失ヲ繼續セシムル譯ニ  
ハ行カサル故ニ實ハ日本側ニテモ之カ代償ノ考慮ヲ願度キ  
次第ナリ就テハ右自分ノ忌憚無キ氣持ヲ日本政府ニ傳ヘラ

レ日本側ニ於テ之ニ應セラルル用意アリヤ確メラレタキ旨  
申述ヘタリ

依テ本使ハ西原「カトル」會談ニ關シテハ何等公報ニ接  
シ居ラス又經濟問題ニ付テハ先般谷次官ト「アンリー」大  
使トノ間ニ現地ニ於テ交渉ヲ進ムル趣旨ノ話合アリタルニ  
鑑ミ本邦ヨリ代表團ヲ送ル積ナラント了解シ居ル處右ニ拘  
ラス當方ニ於テ話合ヲ進メントセラルルモノヤト尋ネタル  
ニ同大臣ハ細目ノ問題ハ現地ニ委セテ可ナルモ經濟、政治  
ノ雙方ニ關聯アル大筋ニ付テハ當地ニ於テ話合ヲ進メタキ  
旨答ヘタリ

就テハ右佛外相ノ申出ニ對スル挨拶振至急何分ノ儀御回電  
相成度シ

1808 昭和15年7月23日 西歐亞局長より  
在ハノイ鈴木總領事宛

### 仏印をめぐる政治軍事協定および經濟協定の

#### 交渉に関する訓令案と説明案について

拜啓陳者佛印トノ政治軍事協定及經濟協定交渉ニ關シ不取  
敢訓令案(別紙(甲)號)及説明案(別紙(乙)號)各二部別添送付致

候處右取扱方ニ付テハ追テ訓電セラル可ニ付之ヲ俟テ措置  
セラレ度候 敬具

昭和十五年七月二十三日

西外務省歐亞局長

在河内

鈴木總領事殿

別紙(甲)號

佛印トノ政治、軍事協定及經濟協定ニ

關スル件(訓令)(案)

一、佛印トノ政治軍事協定及經濟協定ニ關スル方針

陸海軍當局ト協議ノ結果我方ヨリ佛側ニ對シ左記内容ノ  
政治軍事協定及經濟協定締結方ヲ提議スルコト、シ政治  
軍事協定ニ付テハ當地ニ於テ「アンリー」大使トノ間ニ  
交渉ヲ行ヒ經濟協定ニ付テハ貴官ト佛印總督トノ間ニ交  
涉ヲ行フベキコトニ決定セリ、依テ貴官ハ委細別紙(乙)號  
説明ニ依リ御含ミノ上經濟協定ニ付テハ直接總督ト交渉  
ヲ開始セラレ度ク政治軍事協定ニ付テハ西原少將ヲ輔佐  
シ佛印總督ニ對シ我方意向ヲ徹底セシメラル、ト共ニ總

督ヨリ本國政府ニ我方要求受諾方ヲ進言セシムル様極力  
御努力アリ度

二、協定ノ内容

(一)政治軍事協定

(イ)佛印ハ東亞新秩序建設竝ニ支那事變處理ニ付帝國ト  
協力スベク、特ニ差當リ對支作戰ノ爲派遣セラルベ  
キ日本軍隊ノ佛印通過及佛印内飛行場ノ使用(之ニ  
伴フ地上警備兵力ノ駐屯ヲ含ム)ヲ認メ右日本軍隊  
用武器彈藥其ノ他ノ物資輸送ニ必要ナル各種便宜ヲ  
供與ス

(ロ)日本ハ佛印ノ領土保全ヲ尊重ス

(二)經濟協定

芳賀事務官携行ノ「對佛印經濟通商交渉方針ニ關スル  
件」ノ別紙甲號ノ通(右別紙一、中ノ「營業」ニハ銀  
行業ヲ含ムモノトス)

以上

別紙(乙)號

佛印トノ政治軍事協定及經濟協定ニ

關スル件(説明)(案)

二、帝國ハ現下ノ佛國ノ地位及日佛關係ニ鑑ミ此ノ際佛印ヲシテ東亞新秩序建設竝ニ支那事變處理ニ對スル協力ヲ約セシムルト共ニ右目的ノ爲差當リ本件政治軍事協定及經濟協定ノ内容タル帝國ノ要求ヲ容レ、軍事、經濟兩方面ニ於テ帝國ヲ支持セシメンコトヲ期スル次第ナリ而シテ軍事のニハ重慶政權ヲ壞滅セシムル爲單ニ佛印ヲシテ蔣向物資輸送ヲ停止セシムルニ止マラス、更ニ重慶政權ニ對スル作戰ノ必要上別紙(甲)號ニ、(イ)ノ要求ヲ提示スル次第ナリ

二、佛印ニ於テハ其ノ領土ノ安全ニ付危惧ノ念ヲ有シ、我方ヨリ領土保全ノ尊重ニ關スル言明ヲ取付ケンコトヲ切望シ居ルニ鑑ミ、何等カ適當ノ形式ニ依リ右趣旨ノ言明ヲ與ヘ我方ノ公明ナル態度ヲ表示セントスル次第ナルガ右ハ我方ガ佛印ノ領土ヲ侵略スルノ意圖ナキコトヲ表明スルモノニシテ第三國ノ侵略ニ對シテ迄モ佛印ノ安全ヲ保護スベキ義務ヲ負フモノニ非ズ、尤モ右第三國ノ佛印侵略ハ東亞新秩序建設ノ障碍タルニ依リ我方トシテハ之ヲ默視シ得ザルコト勿論ナルモ、右ニ對シ執ルベキ措置ハ

我方獨自ノ立場ヨリ決定スルモノナリ

三、佛側ガ海南島、新南群島、西沙島等ノ問題ヲ持出ス場合ニハ右ハ佛印ニ關スル本件協定ト直接關係無キコトヲ指摘シ一蹴スベキコト勿論ナリ

四、萬一佛側ガ政治軍事協定ノ内容タルベキ我方要求ヲ全面的ニ拒否スル場合ニハ我方トシテハ佛印領土保全ノ尊重ヲ言明スベキ限りニ非ザルコト勿論ナルガ我方ノ執ルベキ態度ハ先方ノ出方及國際情勢等ヲ見タル上之ヲ考究決定スベシ

五、經濟協定ハ我方ト佛印トノ經濟提携ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノニシテ我方ニ於テ佛國及其ノ他ノ國ノ利益ヲ全然無視シ佛印ニ關スル經濟的利益ヲ獨占セントスルガ如キコトヲ意圖スルモノニ非ズ。然レドモ我方ハ通商、企業、入國等ニ關スル事項ニ付佛國、佛國人及佛國物資ト同様ノ待遇ヲ要求スル次第ニシテ右ハ普通ノ通商條約ノ内容ヲ超越スルモノナルニ依リ佛印側ガ難色ヲ示スコトハ豫想セラル、所ナルモ我方トシテハ政治軍事協定ニ依リ佛印領土保全ノ尊重迄モ言明スル次第ナルヲ以テ右我方經濟的要求ハ最大限度ニ貫徹スルヲ要スルコト勿論ナ

リ尤モ經濟協定ニ關スル交渉ハ其ノ性質上政治軍事協定トハ別個ニ之ヲ行フモノトス

六、(イ)政治軍事協定ノ交渉當事者ノ問題ニ付テハ、佛印總督ノ言モアリ且本件協定ハ領土保全ノ如キ重要ナル政治問題ヲ含ムモノナレバ當地ニ於テ帝國政府ト「アンリー」大使トノ間ニ交渉ヲ行ヒ、協定ヲ締結スルコト、ス但シ其ノ形式ハ追テ考慮スルモノトス

(ロ)經濟協定ニ關スル交渉ハ貴官ト佛印總督トノ間ニ於テ之ヲ行ヒ交渉成立ノ上ハ、樞密院ノ關係モアルニ付佛印總督ヨリ貴官宛書翰ヲ以テ佛印側措置ヲ一方のニ通告シ貴官ハ之ヲ「テーク・ノート」スル形式ニ依リ、爾後ノ手續ハ當地ニ之ヲ移シ然ルベク措置スベシ

以上

別紙(乙)號ノ二

企業及入國等ニ關スル我方提案ニ關スル訓令

一、印度支那ハ土地廣大、各種天然資源豐富ナルニ不拘企業心ノ缺如竝ニ本國トノ遠隔關係ニ影響セラレ佛蘭西トシテハ從來是等資源ノ開發、利用ニ努力セス、一方外國ニ

對シテハ門戸閉鎖のニシテ殊ニ地理的ニ近接シ、有無相通ノ自然的竝ニ經濟的關係ニアル本邦ニ對シテハ極メテ制限的ナリ、從ツテ資源ヲ廣ク開發、利用シ人類福祉ノ増進ニ貢獻スヘシトノ大局の見地竝ニ帝國トシテハ其ノ資源ヲ獲得シ東亞自給經濟圏ヲ確立ストノ自主の見地ヨリ今後印度支那ニ對シ企業上積極的ニ進出ヲ試ミサルヘカラスソレカ爲ニハ現今ノ門戸閉鎖的ナル態度、政策ヲ變更セシムルコト肝要ナリ

尙右ニ關聯シ邦人ノ入國、居住、就業竝ニ營業ニ關シテモ現存ノ制限ヲ撤廢シ且ツ將來ニ於ケル其ノ自由ヲ確保セサルヘカラス

二、前記目標ノ下ニ提出スヘキ提案ハ企業問題ニ關スル限り我方ニ對シ資源開放ノ實ヲ擧ケシメントスルモノナルヲ以テ概ネ原則的ナル要求ナルト共ニ右ハ同時ニ具體的ナル意義ヲ具備スルコトトナル

佛印側カ我方要求ニ應シタル場合ハ是ヲ適當ノ形式ニテ文書ニ於テ確認セシメ具體的ナル企業の進出ハ是ヲ其後ノ交渉、發展ニ俟ツモノトス

三、企業及入國問題ニ關スル我方申入案ノ趣旨竝ニ内容ハ別

紙ノ通リトス

四、尙印度支那トノ間ニ政治協定成立スル場合ニハ前記申入案以上ニ進ミタル案即通商、企業及入國ニ關スル佛國人ト同等ノ待遇及全般的資源開放ヲ要求スヘキヲ以テ本案提出ハ暫ク見合スヘク提出時期ハ更ニ訓令ヲ俟ツモノトス

五、尙査證相互免除制度ノ復活ハ最近ノ邦人入國者増加ノ傾向ニ鑑ミ至急實現セシメ度又従業員使用ニ關スル制限モ最近西貢方面ニ於テハ嚴重實施セラレ邦人商社ハ多大ノ不便ヲ蒙リ居ルニ付至急撤廢セシメ度更ニ從來印度支那ニ於テハ邦人ニ對スル壓迫強ク多年同地ニ居住、從業セル邦人ニシテ追放若ハ入國禁止ノ處分ニ附セラレタルモノ尠カラス此點モ佛印側ノ態度ヲ變更セシメ度ニ付以上三點ハ從來ノ懸案トシテ政治協定乃至ハ一般の企業、入國交渉トハ別個ノ問題トシテ至急交渉セラレ度

(別紙)

申入案

一、企業問題

帝國ト印度支那間ノ經濟的關係ノ緊密化ヲ圖ランガ爲ニ

ハ單ニ通商貿易ノ増進ノミヲ以テシテハ不充分ニシテ更ニ資源ノ開發、企業の活動ニ關スル兩者ノ協力最モ緊要ナリト思考ス印度支那ハ土地廣大、各種天然資源豐富ニシテ是ヲ廣ク開發、利用スルコトハ人類福祉ノ増進ニ貢獻スベキト共ニ日、佛印兩者ノ地理の近接竝ニ有無相通ノ關係ニ鑑ミ是等資源ノ開發ニ日、佛兩國ガ協力スルコトハ吾ニ佛國ノ利益ニ合致スルノミナラズ兩者ノ經濟關係ヲ緊密化シ日、佛親善ニ寄與スベキコト多大ナルベシト認メラル、仍テ帝國政府トシテハ佛國側ガ本邦人ノ資源開發參加竝ニ右ニ關スル企業の諸活動ニ對シ出來得ル限りノ便宜ノ供與竝ニ協力的態度ニ出デラレンコトヲ希望シ左記諸提案ヲ提出ス

(イ) 邦人企業新設ノ許可

(ロ) 營業ニ關スル制限ノ撤廢

(ハ) 合辦事業ニ關スル便宜供與

二、入國關係

通商竝ニ企業關係ノ緊密化ハ必然ニ邦人入國者ノ増加ヲ豫想セラルル處邦人ノ入國ヲ容易ナラシムルコトハ兩國

經濟關係ノ緊密化ニ極メテ必要ナリト思考スルニ付テハ左記諸點ニ關スル措置實行方ヲ希望ス

(イ) 將來邦人ノ入國竝ニ入國數ニ關シ制限ヲ設ケザルコト  
(ロ) 査證<sup>(租カ)</sup>及互免除制度ノ復活

(ハ) 入國ニ際シテノ課稅、賦課金其他寄託金制度ノ撤廢  
(ニ) 從業員使用ニ關スル制限ノ撤廢

三、企業及入國問題ニ關スル更ニ具体的要求事項ハ左記ノ通りニシテ前記原則の申入ノ後狀勢ニ應ジ一括シテ又ハ個々ニ提出スルモノトス

(一) 企業及營業

(イ) 邦人ノ土地所有許可、官有地租借ノ許可

(ロ) 農業經營ニ關スル内國人待遇

(ハ) 礦業權ノ獲得

(ニ) 林業權ノ獲得

(ホ) 水産業ニ關シ沿岸及内水漁業ノ許可及根據地ノ設定

(ヘ) 工業經營ニ關スル内國人待遇

(ト) 商業 ッ ッ ッ

(チ) 營業制限ノ撤廢(内國人待遇)

(リ) 資源ノ調査ニ關スル便宜供與

(ヌ) 實際上ノ「コンセツション」許與ニ對シテ便宜供與

(二) 合辦事業

(イ) 邦人關係既存合辦事業ノ維持、擴張ニ關スル便宜供與  
與

(ロ) 新規合辦事業ニ對スル便宜供與  
前記(イ)(ロ)ハ左ヲ含ムモノトス

(A) 新「コンセツション」ノ許與

(B) 既設佛法人ノ買收及資本參加

(C) 日、佛官立合辦會社

(三) 入 國

(イ) 入國ノ自由(將來邦人ノ入國及入國數ニ關シ制限ヲ設ケザルコトヲ含ム)

(ロ) 査證<sup>(租カ)</sup>及互免除制度ノ復活(現行臨時査證事前許可制度ハ撤廢スルコト)

(ハ) 入國ニ際シテノ課稅其他ノ賦課金ニ關スル内國民竝ニ最惠國待遇

(ニ) 歸國旅費積立金及之ニ關スル寄託金制度ノ撤廢

(四) 居住及就業

(イ) 居住及旅行ノ自由(内國民及最惠國待遇)

(ロ)身分證明書手數料輕減並ニ最惠國待遇

(ハ)勞働許可證ノ撤廢

(ニ)外國人雇傭ニ關スル制限ノ撤廢

註(芳賀事務官携行訓令別紙甲號)

在河内鈴木總領事ヨリ佛印總督宛申入要領

元來日本帝國ト印度支那トハ其ノ地理的地位並ニ自然的及經濟的條件ヨリ當然密接ナル關係ヲ保持強化スヘク殊ニ印度支那ノ資源ヲ開發シ帝國トノ間ニ共存共榮ノ實ヲ擧ケ以テ東亞ノ安定及繁榮ニ貢獻スヘキハ自然ノ理ニシテ帝國ハ夙ニ思フ此處ニ致シ過去ニ於テ屢々印度支那ノ反省ヲ求メ來レル次第ナリ然ルニ印度支那ニ於テハ經濟通商其他ノ全分野ニ亘リ專ラ佛蘭西及佛蘭西人ノ利益考慮セラレ外國人ノ經濟活動及通商ニ對シテ極端ナル門戸閉鎖政策ヲ適用セラレ居リ之カ爲東亞ノ安寧福祉並ニ印度支那ノ利益モ犧牲ニ供セラレ以テ今日ニ至レルハ帝國ノ最モ遺憾トスル所ナリ

依テ此ノ際印度支那ニ於テモ帝國ノ意圖ニ對應シ從來ノ不自然ナル各種制限ヲ撤廢シテ帝國トノ經濟提携ヲ促進シ相

互ノ關係ヲ明朗且安定ナラシムル爲左記帝國ノ要望ニ同意セラレンコトヲ希望ス

一、日本國ノ自然人及法人ハ印度支那ニ於テ入國、居住、旅行、身体財産ノ保護、動産不動産ノ取得、生業、職業及營業並ニ企業ノ經營、通商、航海及航空、其他ノ諸活動ニ關スル一切ノ事項ニ付佛蘭西國又ハ其ノ植民地若ハ保護領ノ自然人及法人カ從來享受シ來レル特權の待遇ト同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

二、日本國ノ船舶及航空機ハ印度支那ニ於テ佛蘭西國又ハ其ノ植民地若ハ保護領ノ船舶及航空機カ從來享受シ來レル特權の待遇ト同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

三、日本國ノ原産ニ係ル生産品及製造品ハ印度支那ニ於テ輸入、通過、關稅及其他ノ課稅、稅關手續、禁止若ハ制限等ニ關スル一切ノ事項ニ付佛蘭西國又ハ其ノ植民地若ハ保護領ノ原産ニ係ル生産品及製造品カ從來享受シ來レル特權の待遇ト同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

1809

昭和15年7月24日

在ハノイ鈴木總領事ヨリ  
松岡外務大臣宛(電報)

## 新任のドクー仏印総督との初会談につき報告

ハノイ 7月24日後発

本省 7月25日前着

第一五一號

本二十四日新總督「ドクー」へ挨拶ノ爲西原少將ト共ニ往訪セル處同總督ハ「カトルー」總督同様日、佛印關係調節ニ努力スヘキモ政治又ハ軍事問題ニ付テハ權限無キニ付外交交渉ニ依リ度キ旨強調シ居レリ尤モ關稅改正其ノ他經濟問題ニ付テハ重大ナラサル限り總督限りニテ處理スヘシト語レリ

惟フニ新總督ノ態度ハ「カトルー」ヨリモ成ルヘク先方ニ不利ナル局地的交渉ヲ避ケ佛印問題ヲ日佛本國間ノ交渉ニ遷サントシ居ルヤニ見受ケラレタリ

尙「カトルー」前總督ハ本邦經由歸國ノ途ニ上ルヘシトノコトナルカ其ノ日程ニ付テハ確定次第追電スヘキモ同總督カ眞面目ニ本邦トノ提携ヲ考ヘ居タル事實モアリ本邦立寄りノ節ハ然ルヘク御執成シ相煩度シ

## 1 仏印ルート

1810

昭和15年8月1日

在ハノイ鈴木總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ドクー總督はわが方の經濟的要求を過小に予測しているため經濟交渉は難航が予想される

旨報告

ハノイ 8月1日後発

本省 8月2日前着

第一六二號

本官一日總督ニ面會一時間餘ニ亘リ種々懇談シタル處同總督ハ政治軍事等重要問題ニ付テハ兩本國政府間ノ交渉ニ依ラレ度ク經濟事項ニ付テハ成ルヘク速ニ當地ニテ折衝シ度キ旨語レルカ右ハ一方政治問題ニ付テハ「カトルー」前總督ノ過度ノ讓歩ヲ是正セントスル佛國政府ノ意ヲ體シ現地交渉ヲ回避セントスルモノナルト同時ニ他方我方ノ經濟的要求ヲ過少ニ豫側シ此ノ方面ニ於テ我方ヲ満足セシムルコトニ依リ軍事的要求ヲ緩和セントスル魂膽ヲ有スルヤニ見受ケラルル處相當強キ内容ノ訓令ノ經濟的要求ニ鑑ミ先方ハ或程度迄ハ現地交渉ニ應スヘキモ純政治問題ハ之ヲ本國政府ノ交渉ニ移サントスルコト無キヤヲ保シ難シ當方トシ

テハ出來得ル限り現地解決ヲ圖ルヘキモ爲念

1811 昭和15年8月2日 松岡外務大臣より  
在ハノイ鈴木総領事宛(電報)

### 仏印に関する經濟問題の現地交渉開始方訓令

本省 8月2日後9時50分發

第一五九號(極秘、館長符號扱、至急)  
往電第一五四號ニ關シ

一、八月一日日本大臣ヨリ佛大使ノ來訪ヲ求メ先ヅ政治問題ニ關シ七月二十三日附西局長發機密信別紙甲號三、(イ)ノ我方要求ヲ申入ルルト共ニ右要求ハ支那事變處理ヲ目的トシ蔣政權打倒ノ爲必要ナル地域ニ限ル次第二シテ佛印ノ領土ヲ侵略セントスル意圖ニ基クモノニ非ズト申添ヘタルニ大使ハ種々苦情ヲ述ヘタル後本國政府ヘ傳達スベキ旨答ヘタリ

本件問題ニ關スル貴方措置振ニ就テハ當地ニ於ケル話合ノ成行ヲ相當見極メタル上追テ何分ノ儀訓電スベシ(軍側ト打合濟)

二、經濟問題ニ付テハ本大臣ヨリ我方ノ要望ハ要スルニ佛印

ガ通商並ニ邦人ノ入國及企業等ニ關スル事項ニ付佛國ニ對スルト同一ノ待遇ヲ許與スルコトニアル處右經濟交渉ハ在河内帝國總領事ヲシテ佛印當局トノ間ニ行ハシムル意向ナリト述ベタルニ大使ハ日本側ニ於テハ右内國民待遇ニ付相互主義ヲ承認セラルルヤト反問セルニ依リ本大臣ハ今次交渉ハ佛印ニ關スルモノニシテ日本ノコトハ問題トナラズト應酬シ置ケリ

依テ貴官ハ前記機密信ノ經濟交渉ニ關スル部分ノ趣旨ニ依リ至急佛印總督ニ對シ經濟問題ニ關スル我方要求ヲ申入レ交渉ヲ開始セラレ度シ

尙佛印側ガ相互主義ヲ持出ス場合ニハ我國ニ於テハ既ニ佛印側ニ對シ公正ナル好意的取計ヲ爲シ居ルノミナラズ今次ノ我方要求ハ共存共榮、有無相通ノ理想ニ基キ通商ノ増進及資源ノ共同開發等ヲ目的トスルモノナルヲ以テ現下ノ佛印ノ地位(經濟的ニモ本國ヨリ孤立シ我方ニ倚存セザルヲ得ザル立場ニ在ルモノト觀察シ居レリ御含意)ニ鑑ミ佛印ニ關スル事項ノミニテ既ニ佛印側ニモ利益ヲ齎スベキ性質ノモノナル點ヲ指摘シ相互主義ノ要求ヲ一蹴セラレ度

昭和15年8月2日

松岡外務大臣より  
在米国堀内大使、在ジュネーブ藤井総領事代理他宛(電報)

### 仏印に関する政治軍事上および経済上のわが

#### 方要求をアンリ大使へ申入れについて

別電 昭和十五年八月二日発松岡外務大臣より在米

国堀内大使、在ジュネーブ藤井総領事代理他

宛合第一七〇六号

右わが方要求事項

本省 8月2日発

合第一七〇五號(極秘、館長符號扱、至急)

往電合第一六〇七號ノ二、ニ關シ

八月一日佛大使ノ來訪ヲ求メ本大臣ヨリ我方ニ於テハ先般來ノ佛印ニ於ケル蔣向物資輸送禁絶措置ヲ多トシ居ル處佛印ガ東亞新秩序建設及支那事變處理促進ノ爲政治的、軍事的竝ニ經濟的ニ更ニ廣汎ナル範圍ニ於テ我方ト協力セラレシコトヲ要望ス即我方トシテハ佛印國境ニ近接スル方面ヨリ對支作戰行動ヲ起スコト甚ダ緊要ナリトテ別電第一七〇六號ノ一、ノ趣旨ヲ申入ルト共ニ軍隊通過等ニ關スル要求

ハ支那事變處理ヲ目的トシ蔣政權打倒ノ爲必要ナル地域ニ限ル次第ニシテ右ハ佛印ノ領土ヲ侵略セントスル意圖ニ基クモノニ非ズト申添ヘ更ニ經濟問題ニ關シ別電ノ三、ノ申入ヲ爲シタルニ大使ハ政治問題ニ關スル要求ハ日本スラ支那ニ對シ宣戰ヲ布告シ居ラザルニ中立の立場ニ在ル佛ニ對シ對支宣戰布告ヲ要求スルニ等シト述べ經濟問題ニ關シテハ日本側ハ内國民待遇ニ付相互主義ヲ承認スルヤト反問セリ依テ本大臣ハ宣戰布告ノ有無ノ如キハ問題トナラズ佛ガ支那ニ於テ大規模ノ戰鬪行爲行ハレ居ル現實ノ事態ヲ直視セムコトヲ求ムルモノナリ我方ヨリ進ミテ佛ノ中立的地位ヲ侵スノ意思ハ無キモ今次ノ我方要求ハ軍事上ノ絕對的必要ニ基クモノナルニ依リ若シ佛側ガ之ヲ容レザル場合ニハ或ハ形式ニ於テモ中立ヲ犯スコトナルヤモ知レズ然レドモ斯クノ如ク形ノ上ニ於テモ中立ヲ犯スコトハ我方ノ最モ好マザル所ナルニ依リ今次申入ヲ爲ス次第ナリ又一九〇七年ノ日佛協定ハ之ニ依テ受ケタル佛印ノ利益ニ對比シ我方ニハ殆ント對償ナキニ不拘日本ガ之ヲ應諾シタルト同様ノ精神ヲ以テ今回ハ佛側ニ於テ我方要望ヲ容レラレ度ク斯ル要望ハ日本ガ好シク爲スモノニ非ズ情勢ガ日本ヲシテ要求セ

シムルモノナリト説明シ且方今ハ何トモ得體ノ知レヌ事態  
類發スル世ノ中ニテ日本ノ要求ニ應シタリトテ必スシモ宣  
戰布告ヲナスモノトモ解スルノ要ナカルヘシト説キタルニ  
大使ハ御説明ニハ一應納得セラルル點モアルモ佛印ニ關ス  
ル日本側要求ハ次々ニ増大スルノミニシテ今次ノ要求ヲ容  
ルレバ更ニ何ヲ要求セラルルヤ測リ難シト述べ居タルガ兎  
モ角本國政府ニ取次グ可シトテ引取レリ

尙經濟問題ニ關スル相互主義云々ノ點ニ付テハ本大臣ハ今  
次ノ交渉ハ佛印ニ關スルモノニシテ直接日佛ノ間ノ事ハ問  
題トナシ居ラズト應酬シ置ケリ  
本電及別電宛先 壽府(佛)、米、南京、廣東、上海、北京  
壽府ヨリ英、獨、伊、蘇へ轉電アリ度、廣東ヨリ香港へ轉  
電アリ度

編注 在ジュネーブ藤井総領事代理を通じてヴィシーの在仏  
国沢田大使へ転報。

(別電)

本省 8月2日後10時30分發

合第一七〇六號(極秘、館長符號抜、至急)

一、帝國ハ佛印ガ東亞新秩序建設竝ニ支那事變處理ニ付帝國  
ト協力シ、特ニ差當リ對支作戰ノ爲派遣セラルベキ日本  
軍隊ノ佛印通過及佛印飛行場ノ使用之ニ伴フ地上警備  
兵力ノ駐屯ヲ含ム)ヲ承認シ且右軍隊用武器彈藥其ノ他  
ノ物資輸送ニ必要ナル各種便宜ヲ供與センコトヲ要望ス  
尙本件ハ重要ナル政治問題ナルニ依リ、主トシテ當地ニ  
於テ交渉ヲ進メ度、事ノ緊急性ニ鑑ミ至急貴國政府ノ回  
答ヲ得度シ

二、經濟提携ニ關シテハ要スルニ佛印ガ通商竝ニ邦人ノ入國  
及ビ企業等ニ關スル事項ニ付佛國、佛國人又ハ佛國物資  
ニ對スルト同一ノ待遇ヲ我方ニ許與センコトヲ要望ス、  
右交渉ハ在河内總領事ヲシテ行ハシムル意向ナリ

1813 昭和15年8月3日 在仏国沢田大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

仏印に関する交渉では仏国の面子を損ねない  
形式での解決を仏国外相要望について

第六六九號(至急、館長符號扱)  
 三日「ボードアン」外相ノ求メニ應シ往訪シタル處昨日閣下ヨリ「アンリー」大使ヲ通シ佛國政府ニ申入アリタル點ノ概要ヲ話シタル後本日之力受諾ヲ困難トスル旨同大使宛回訓シタル旨ヲ告ケ但シ其ノ拒絕ノ趣旨ハ御申入ノ内容ノ問題ニアラスシテ形式ノ問題ニ過キス佛國トシテハ對獨戰爭ニ敗北ノ苦杯ヲ嘗メテ少カラス面子ヲ失ヒ居ル處此ノ上更ニ踏付ケラレタル形ニテ日本側ノ要求ヲ強ヒラルルコトハ國民ニ對シ又爾餘ノ多數植民地統治ノ上ニ及ス影響ニ鑑ミ政府トシテ益々苦シキ立場ニ置カルルコト充分御諒解アリタク倒レタルモノヲ踏付ケルコトハ日本精神ニモ反スル所ト信スルニ付何處迄モ佛國政府ノ面子ヲ傷付ケス其ノ主權ヲ尊重スル形式ニテ要求セラルレハ之ヲ協定スルニ決シテ手間取ラセス數日ニテモ仕上クルニ付兎モ角双方協議ノ上ノ措置ナリト發表シ得ル様致度ク其ノ趣旨ノ徹底スル様本使ヨリモ帝國政府ニ對シ充分説明アリタキ旨切ニ依頼スル所アリタリ

ヴィシー 8月3日後発  
 本省 8月4日夜着

1814

昭和15年8月3日 在仏国沢田大使より  
 松岡外務大臣宛(電報)

仏国の面子を損ねなければ仏印に関するわが  
 方要求を仏国側は受諾するとの感触について

ヴィシー 8月3日後発  
 本省 8月4日夜着

第六七〇號(至急、館長符號扱)  
 往電第六六九號ニ關シ

「ボ」外相ハ帝國政府申出ノ内容ニ付テハ大體異存ナク唯形式ヲ日本ヨリ押付ケラレタリト云フコトニセス相互話合ニ依リテ協定ニ達シタリト云フコトニシタシト屢々繰返シタルヲ以テ本使ヨリ政府ヨリ何等通報ニ接シ居ラサルヲ以テ何トモ言ハサルモ假ニ協定ヲ成立セシムルトシテ日本側申出ニ對シ佛國側ハ「コントルパルテイ」トシテ要求セラ  
 ルル所ニ付何等考アリヤト質ネタルニ外相ハ別ニ多クヲ期待セス例ヘハ「トンキン」ニ於ケル日本軍駐屯等ハ一時的措置ニ過キササル旨ヲ日本側ニ於テ約束シ吳レラルトカ日佛ノ友好關係ハ日本モ顧念スル所ナルヲ以テ今後トモ日本佛印間ノ經濟的政治的善隣關係増進ヲ希望スル旨約束シ吳

レラルトカ兎モ角佛國ノ主權ト面子トヲ尊重シタル形ト  
スル趣旨ニ於テ何トテモ「フオウミユラ」ヲ發見シ得ヘク  
此ノ趣旨ナラハ速ニ協定ヲ成立セシメ得ヘシト述ヘ此ノ形  
式サヘ執レハ帝國政府申出ノ内容其ノモノニ付テハ大體之  
ヲ受諾シ得ルヤノ感觸ヲ與ヘタリ

1815

昭和15年8月4日

在ハノイ鈴木總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

ドクー總督は前總督の対日讓歩を回復せんと  
しつつあるところ対処振り請訓

ハノイ 8月4日後発

本省 8月4日夜着

第一六九號

總督ノ更迭ニ件フ佛印側態度ノ變化ニ關シテハ累次電報ノ  
通り新總督ハ總ユル機會ヲ利用シテ既往ノ讓歩ヲ回復セン  
トシツツアリ從テ監視員側トノ折合モ自然面白カラサルニ  
至リ昨二日委員長代理ヨリ總督ニ對シ先方ノ反省ヲ求メタ  
ル文書ヲ手交シタル經緯アル處本三日本官佛印首脳部ト共  
ニ總督ノ午餐ニ招待セラレタル際同席ノ政務局長、聯絡將

校等ハ當地佛人間ニ信望厚キ西原少將サヘ歸來セハ問題ハ  
圓滿解決スヘシト述ヘ居タルカ右ハ勿論現狀維持ニ汲々タ  
ル念ヨリ出テタルモノナルカ或ハ先方ニ於テ同少將ノ協調  
的態度ヲ利用セントスルモノカトモ思ハルル處我方トシテ  
ハ之二對シ脅喝的態度ニテ臨ムヲ得策トスルヤ又ハ摩擦ヲ  
避ケツツ目的ヲ達スル方針ニテ進ムヲ有利トスルヤ御考慮  
相成度何等御參考迄申進ス

1816

昭和15年8月6日

松岡外務大臣より  
在米國堀内大使、在ジュネーブ藤井総  
領事代理他宛(電報)

アンリ大使が仏国政府回答を通告し仏国の体  
面を損ねないとの条件で仏印の政治軍事問題  
に関するわが方要求を原則応諾について

付記 右仏国政府回答仮訳

本省 8月6日後10時0分発

合第一七三六號(至急、極秘、館長符號扱)  
往電合第一七〇五號ニ關シ

六日在京佛大使本大臣ヲ來訪、本國政府ヨリ回訓ニ接シタ

(付記)

リトテ冒頭往電政治問題ニ付テハ日本側要求ヲ承諾スル旨、尤モ右ニ付テハ佛國側ノ体面ヲ損セザル形トセラレ度ク之ガ爲協定ノ形式ニ付テハ同大使ト次官トノ間ニ打合せヲ遂グルコトトシ度ク、要スレバ西原少將ヲ之ニ参加セシムルモ可ナリ、又經濟問題ニ付テハ現地ニ於テ交渉スルヤウ希望ス自分ハカカル問題ハ不慣ナレバト述べタリ(其實質ニ就テノ意義ニ解ス)依ツテ本大臣モ之ニ同意セリ其ノ際大使ハ今次日本側要求ハ佛國ノ体面ヲ蹂躪スルモノナリトカ或ハ最後通牒的ナリトカ繰返シタルニ依リ、本大臣ヨリ我方ニ於テハ佛國側ノ体面ヲ毀損スルガ如キ意向ハ毛頭無ク否特ニ之ヲ避ケント欲シタレバコソ形ノ上ニ於テモ右ノ如キコト無キヲ期スル爲今次申入ヲ爲シタル次第ニシテコノ事ハ前回會談ノ際特ニ本大臣ヨリ反覆シタルコトハ貴大使御承知ノ通ナリト説明シ置ケリ(本件外部ニ洩レザル様特ニ注意アリ度)右不取敢

本電宛先 冒頭往電ノ通  
冒頭往電通轉電アリ度

佛印問題ニ關スル在京佛大使館「メモ」假譯

(昭和十五年八月七日 次官宛送付越)

佛國政府ハ帝國政府ヨリ駐日佛國大使ヲ通ジ申越サレタル諸要求ニ付キ最大ノ注意ヲ以テ檢討セリ。

佛國政府ハ右最後通牒ヲ受容レ得ズト思考ス蓋シ佛國ニ於テハ是等要求ノ形式及底意ガ右ノ如キ性質ヲ有スルモノト思考スレバナリ。

佛國政府ハ最モ熱烈ニ其ノ面目ヲ尊重セラルル帝國政府ガ戰敗ノ後ニ於テモ猶佛國政府ガ其ノ面目ヲ尊重シ居レルコトヲ了解セラルルコトヲ期待ス。

佛國政府ハ帝國政府ガ本件要求ヲ提起セラルルコトニ依リ佛國ガ既ニ多大ノ好意ヲ示シ來レル本件會談ノ當初ニ障碍ヲ投ゼラレタリト思考スルモノナリ。

佛國政府ニ對シスル重大ナル軍事的要求ヲ提出セラレ且猶豫ナク之ガ受諾ヲ要求セラルルコトハ帝國政府ニ於テ曩ニ松岡氏ガ「アルセース、アンリー」氏ニ手交セラレタル覺書ノ最後ノ部分タル經濟問題ノ研究ヲ更ニ困難ナラシムルモノト信ズ、而シテ本件經濟問題ニ付テハ佛側ハ眞ノ日佛經濟協力ノ基礎タラシムヘク日本ニ對シ「コンセツシヨ

ン」ヲ附與スベク決意シ且現在モ其ノ決意ニ變リ無キモノナリ。

佛國政府ハ本件日佛協力關係ガ實現ヲ見且一般的ニ日本ト佛國トノ間ニ相互信賴ト政治的良好關係ノ築カルルニ至ラシコトヲ希望スルノ餘リ東京<sup>トシキ</sup>ニ於ケル或種ノ特別ノ便宜ヲ日本ニ對シ原則トシテ供與スルコトヲ拒絶スルモノニハ非ズ。

乍併本件便宜ハ自由ニシテ通常ノ狀態ニ於テ行ハレタル商議即チ餘リニ急激ニ非ズ又表面ニ現ハルル如キ壓迫無キ商議ニ依テノミ到達セラルベキモノナリ、本件商議ハ日本ガ印度支那ニ何等ノ領土的野心無シトノ單ナル口約ニ止マラズ更ニ正確ニシテ廣範圍ノ保障ヲ作成スベク進捗スベキモノナルベシ。

佛國政府ハ松岡氏ガ此ノ餘リニモ性急ナル手續ニ對スル佛側ノ難色ガ正當ナルモノナルコトヲ認メラルベキコトヲ疑ハズ。

斯ル重大ナル問題ニ於テ餘リニ性急ナル手續ハ單ニ印度支那ニ對シテノミナラズ他ノ列強ニ對スル關係ニ於テ佛國政府ノ責任問題ヲ惹起スルノ惧アリ、右ハ佛國ガ休戰制度下

ニアル故ニ最モ注意ヲ要スベキ點ナリ。

編注 本文書の原文(仏文)は省略。

なお、右原文には「昭和十五年八月六日松岡大臣ニ「ア  
ンリー」大使ヨリ讀上ゲタル佛印ニ關スル我申入ニ對  
スル回答、八月七日、本文松宮次官宛送付越セリ」と  
の書き込みあり。

1817

昭和15年8月8日

在ハノイ鈴木総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

經濟交渉を現地仏印で行うことにドクー総督

が難色表明について

ハノイ 8月8日後発

本省 8月9日前着

第一七六號(至急、極秘、館長符號扱)

貴電<sup>(1)</sup>第一五九號ニ關シ

一、本八日午後總督ニ面會訓令ノ内容ヲ記載セル書翰ヲ手交  
シ日印支間經濟提携ノ必要ヲ説述シ我提案ニ同意サレタ  
キ旨述ヘタル處總督ハ自分ハ日佛間ノ重要問題ニ付テハ

總テ兩國政府間ノ交渉ニ委ネラルヘシトノ命令ヲ受ケ居  
 リ本件ノ如キ重大ナル案件ニ關シテハ勿論「ビツシー」  
 政府ニ申出アリタルコトナルヘシト言ヒタルニ付本官ヨ  
 リ政府ヨリ經濟問題ニ關シ貴總督トノ間ニ交渉ヲ爲スヘ  
 キ旨ノ命令ニ接シ參上シタルモノニシテ在京佛國大使モ  
 外相ト會見ノ際經濟問題ニ關シテハ現地ニ於テ交渉ヲ爲  
 スヘシト提案セラレタリト言ヒタル處同總督ハ自分モ經  
 濟<sup>(2)</sup>  
 交渉開始ヲ待チ<sup>(能)</sup>ヒ前回御面會ノ節モ催促致シタル程ニ  
 テモ斯ル重大ナル申出ニ關シテハ自分ノ權限外ニテ本國  
 政府ニ御申入アツテ然ルヘシト思考スト答ヘタリ依テ本  
 官ハ本申入レハ政府ノ訓令ニ基クモノニシテ我方ノ決意  
 ハ極メテ固ク其ノ内容ハ取引ニ非サルヲ以テ變更シ得サ  
 ル性質ノモノナルコトヲ説キタル處同總督ハ兎ニ角早速  
 本國政府ニ傳達シ自分モ此ノ問題ヲ研究スヘシ只本書翰  
 中佛印側力從來門戸閉鎖主義ヲ採リシ如ク記サレアルモ  
 佛印ハ日本ノ必要ナル米、玉蜀黍、石炭等ヲ提供シ日本  
 ヨリモ多量ノ物資ヲ

1818

昭和15年8月8日

在仏国沢田大使より  
 松岡外務大臣宛(電報)

輸入シ居レルヲ以テ右ハ事實ニ反ス又右政策カ東洋ノ平  
 和及繁榮ニ害ヲ及ホセリト爲スハ途方モナキコトナリト  
 反駁シ來レルニ付本官ヨリ右ノ語ハ多少穩當ヲ缺ク嫌ア  
 リ又實際ノ狀態ハ右ニ近キニ非スト言ヒタルニ同總督ハ  
 右ニ關スル議論ハ御提案ノ本質ニ關スルモノニ非サルヲ  
 以テ打切り本書翰ハ自分ニ宛テラレタルモノナルヲ以テ  
 自分ヨリ何分ノ返答ヲ爲スヘシト答ヘタリ  
 二、<sup>(4)</sup>右會談中同總督ハ先日懇談ノ機會(往電第一六二號)ニ貴  
 官ヨリ兩國ハ相互理解ノ精神ニ立脚シ話合ハサルヘカラ  
 サル旨述ヘラレ自分モ全ク同感ナルカ抑モ佐藤大佐ノ要  
 求ノ如キハ偽裝セル恐喝(menace deguise)ニシテ斯ル  
 コトハ右精神ニ背馳スルモノニシテ之ニ對シ自分個人ト  
 シテハ不可能ト御答ヘスル外無シト言ヒタルヲ以テ本官  
 ヨリ日佛間ニ既ニ政治問題ニ關スル協定成立シタルニア  
 ラスヤト述ヘタル處同總督ハ右ハ全然初耳ナリトテ驚キ  
 タル様子ヲ示シ居タリ

仏印に関するわが方要求に対し可能な限り広  
い理解をもつて応じるようアンリ大使へ訓令  
した旨仏国外相内話について

ヴィシー 8月8日後発

本省 8月9日後着

第六七四號

八日「ポウドアン」外相ノ求メニ應シ往訪シタル處外相ハ  
六日閣下ト「アンリー」大使トノ會談報告ニ接シタルコト  
ヲ告ケ閣下ニ於テ佛國側提議ニ同意セラレタルコト特ニ佛  
國ニ於テ目下氣ニ掛居ル體面ヲ毀損スル如キ意圖毛頭ナキ  
コトヲ確言セラレタルコトハ佛國政府ノ最モ多トスル所ナ  
ル旨閣下ニ傳達方依頼スル旨ヲ述ヘ同時ニ早速「アンリ  
ー」大使ニ對シテハ出來ル丈ケ廣キ理解ヲ以テ日本ノ要求  
ニ應スルコトニ努メラレ日本側ヨリモ今次要求ハ一時的措  
置ニ過キササル旨ノ約束ヲ得タル上速ニ協定成立ニ當ルヘキ  
旨訓令シタルニ付之又併セテ貴大使ヨリモ東京ニ御傳ヘア  
リタキ旨依頼アリタリ尤モ經濟問題ニ付テハ佛印ニ於テ實  
際上ノ調査商議ニ當ラシムルモ其ノ結果ハ之ヲ政府ニ報告  
セシメ兩國政府間ノ協定トシタキ意ナル旨附言シ居リタリ

1819

昭和15年8月10日  
在上海三浦總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

仏印に関する日仏交渉への重慶政權反応振り

につき報道情報報告

上海 8月10日後発

本省 8月10日後着

第一七二三號

最近當地漢字紙ハ連日日本カ對支作戰基地トシテ佛印利用  
方ニ關シ佛印當局ト折衝中ナル旨竝ニ支那ハ佛印國境ニ大  
軍ヲ集中シ待機ノ姿勢ニ在ル旨大々的ニ報シ一般ノ注視ヲ  
集メ居ル處九日重慶發UP電ニ依レハ中央日報ハ若シ日本  
カ佛印ノ政治及領土ノカンセイヲ毀損スルカ如キ行動ヲ執  
リタル際ハ支那ハ自國ノ獨立保全ノ爲必要ノ措置ヲ採ル用  
意アル旨竝ニ米蘇兩國カ日本ノ野心防遏ノ爲積極的措置ヲ  
講スルコトヲ期待スル旨力説シ居ル趣ナルカ六日重慶發中  
央社電ニ依レハ支那側當局ハ既ニ佛印國境ヲ封鎖スル一方  
佛蘭西側ニ對シ本件折衝停止方要求シ若シ支那側カ不幸ニ  
シテ自衛措置ヲ講スルノ止ムナキニ至リタル際ハ之ニ依リ  
生スヘキ一切ノ結果ハ一切佛國側ニテ責任ヲ負フヘキ旨嚴

重警告ヲ發シタル趣ナリ

支、北京、天津、漢口ニ轉電シ香港ニ郵送セリ

1820

昭和十五年八月十一日  
松岡外務大臣より  
在仏国沢田大使宛(電報)

わが方提案の仏印に関する交換公文案を受諾  
するよう仏国政府説得方訓令

付記一 昭和十五年八月九日提案

政治軍事問題に関する交換公文案簡案

二 昭和十五年八月九日提案

經濟問題に関する交換公文往簡案

本省 八月十一日前4時0分発

第三七二號(極秘、至急、館長符號披)

一、九日松宮次官ヨリ佛大使ニ我方要求(壽府宛電報濟ノ趣旨)ヲ記載セル往翰案及先方之ヲ承諾スル旨ノ來翰案ヲ提示シ、本件要求ハ軍ノ必要上絶対的ニシテ急ヲ要スルニ付速ニ承諾アリ度シト述べタルニ、大使ハ要求ノ内容漠然タル爲若シ之ヲ應諾セバ實際運用ニ當リ、日本軍ヨリ如何ナル要求ヲ提出セラレテモ拒絶スル譯ニハ行カズ

斯クテハ佛印全土ヲ日本軍ノ手ニ委スルニ等シトテ要求地點ノ具体的明示方要望シ、次官ヨリ軍事行動ノ範圍ハ對支作戰ト云フ點ヨリ自ラ限局セラレ居リ何等不安アル筈無シ、細目ハ現地交渉ニ譲リ差支ナキ旨力説シタルモ、大使ハ白紙手形ヲ振出スニ等シトノ自説ヲ繰返シ、強ヒテ之ヲ本國政府ニ取次グモ、其ノ儘同意セザルハ明カナリトテ再考ヲ懇請セリ(尙、其ノ際次官ヨリ貴方ノ不滿ハ案文中ニ我方ニ侵略ノ意圖無キ旨ノ記載無キ爲ナリヤト問ヘルニ、大使ハ之ヲ否定シ通過地點其ノ他具体的事項ノ明示ヲ頻リニ要望セリ)

依テ翌十日地域ヲ「トンキン」州ニ限ル案ヲ提示シタルニ大使ハ右ニ對シテモ前日同様危惧ノ念ヲ反覆シ具体的事項ノ明示ヲ主張シタルモ、次官ヨリ是レ以上明示スルコトハ軍ノ機密保持上不可能ナリトテ其ノ儘同意方要望シ大使ヨリ請訓スルコトトナレリ尙其ノ際東亞新秩序ニ關シ次官ヨリ佛國政府ニ於テ銘記セラレタキコトハ今次ノ我方要求ハ東亞ニ於ケル恆久的平和確立ノ妨碍ヲナス蔣政權打倒ノ爲已ムヲ得ザル必要ニ出デタルモノナルコトナリ。右平和確立ニハ佛側ニ於テモ異存無カルベク、

從テ其ノ前提トシテ必要ナル蔣打倒ニ協力ヲ求ムルモノ  
ニシテ何等他意アルニアラズ、若シ蔣政權ニシテ崩壞シ  
居レバ、今回ノ如キ要求ヲ爲スヲ要セザリシナル可シ本  
件考量ノ際此ノ點特ニ念記スル様本國政府ニ傳達アリ度  
シト述ベタルニ大使之ヲ承諾セリ

就テハ貴使ヨリモ佛國政府ニ對シ、大局の見地ヨリ是レ  
以上詳細ノ要求ヲ爲サズ其ノ儘同意スルノ得策ナルコト  
ヲ説キ、大至急同案受諾ノ旨回訓スル様御説得アリ度

二、經濟問題ニ付テハ九日次官ヨリ通商、入國、企業、船舶、  
飛行機等ノ佛本國待遇ニ關スル我方要求ニ付交渉方鈴木  
總領事ヘ訓令濟ニ付右應諾方總督ニ訓令アリ度キ旨ノ公  
文案ヲ提示シタルニ、大使ハ斯カル廣汎ナル問題ハ總督  
ノ權限外ナレバ中央ニテ交渉スベキモノナリト述べ、尙  
日本側ハ相互主義ヲ承諾スルヤト問ヘルニ依リ、次官ヨ  
リ我方ハ各國人ニ對シ「フエア」ナル待遇ヲ與ヘ居ルニ  
拘ラズ佛國ハ佛印ニ於テ一般ニ外國側ニ對シ排他、獨占  
の政策ヲ取り居リ、爲ニ本邦、佛印間ノ自然的經濟關係  
ノ發達ヲ著シク阻碍シ居ルニ依リ、今回ノ交渉ニ於テ之  
ヲ是正セントスルモノニテ、相互主義ハ問題トナラザル

コトヲ力説シタルニ大使ハ此ノ點相當納得セル模様ナリ  
キ

尙、十日會談ノ際、經濟問題ハ既ニ鈴木總領事ヨリ申入  
濟ト考フルニ付速ニ同意スル様本國政府ニ傳達方要望シ  
タルニ、大使ハ要求ノ内容ノ通報ヲ得タル上取次グ可キ  
旨約シタリ

河内へ轉電セリ

(付記一)

交換公文(案(來翰))

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ通御申越相成敬  
承致候

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ日本國政府ハ日本國佛領印  
度支那間ノ友好善隣關係ノ増進ヲ希望シ右ノ爲其ノ最善  
ヲ盡スベキ處佛國政府ニ於テモ東亞ニ於ケル平和ノ速カ  
ナル克復及新秩序ノ建設ニ付協力スルノ精神ヲ以テ對支  
作戰ノ爲派遣セラルベキ日本國軍ガ佛領印度支那領域ヲ  
通過シ、同領域内ノ飛行場ヲ使用(之ニ伴フ地上警備兵  
力ノ駐屯ヲ含ム)スベキコトヲ承認セラレ且右日本國軍

1 仏印ルート

ノ武器彈藥其ノ他ノ物資輸送ニ付充分ナル便宜ヲ提供セ  
ラレンコトヲ要望スル旨申進スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ佛國政府ハ右貴翰中ニ述ヘラ  
レタル日本國政府ノ友好的精神ノ表示ヲ了承シ前記日本國  
政府ノ要望ヲ承諾スル旨回答スルノ光榮ヲ有シ候

右回答申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候  
敬 具

編 注 本文書の往簡案は省略。

(付記一)

在京

佛國大使

松岡 外務大臣

(日佛印經濟通商交渉ニ關スル件)

以書翰啓上致候陳者日本國政府ハ日本國及印度支那間ノ經  
濟的善隣關係ノ増進ハ相互ノ友好關係維持ノ基礎タルニ鑑  
ミ之カ爲日本國、日本國臣民及法人、日本國ノ船舶及航空  
機竝ニ日本國原産品ハ印度支那ニ於テ凡テノ點ニ付佛本國、

佛本國臣民及法人、佛本國ノ船舶及航空機竝ニ佛本國ノ原

産品カ同地ニ於テ從來享受シ居タルト同一ノ特權的待遇ヲ  
許與セラルル様印度支那總督ニ對シ申入方在河内帝國總領  
事ニ訓令濟ナル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

日本國政府ハ佛國政府ニ於テ右日本國政府ノ要望カ日本國  
及印度支那ノ相互利益増進上最モ必要且適切ナルモノナル  
コトヲ諒トセラレ印度支那總督ニ對シ之カ受諾方訓令セラ  
レンコトヲ希望致候

本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

編 注 本文書の來簡案は見当らない。

1821 昭和15年8月12日 在仏国沢田大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

仏印に關する交換公文案の受諾を仏国外相へ

要請について

ヴィシー 8月12日後発

本 省 8月13日前着

第六八〇號(館長符號扱)

十二日午後「ボードアン」外相ヲ往訪シ貴電第三七二號御訓令ノ御趣旨ニ依リ大乗的ニ我方提案ヲ至急受諾スル様申入レタル處同外相ハ實ハ「アンリー」大使ヨリ電報接到セルモ相當長文ニテモアリ本朝十一時漸ク解讀ヲ了シタル次第ナルカ電文中ニハ不明ノ個所モアルヲ以テ整理ヲ爲シタル上ニテ今夕植民大臣ト會合シ明朝「ペタン」元帥ノ下ニ會議ヲ開キタル上ニテ回訓ヲ發スル手筈ニ致シ居ルヲ以テ只今回答トシテハ何トモ申上ケ得サルカ自分ノミノ感想ヲ率直ニ云ハハ先般來貴大使ヲ通シテ佛國ノ體面ヲ顧慮セラレタキ旨ヲ申入レタル點ハ全然考慮セラレ居ラス而モ軍隊ノ通過地點、軍隊數等ヲ明示セスシテ諸般ノ便宜供與ヲ要求セラルルコトハ何ト云フテモ佛國領土占領ノ感ヲ與ヘ國民ニ對スル手前佛國政府ヲ最モ困難ナル地位ニ陥レルモノナルニ鑑ミ日本政府現在ノ提案其ノ儘ニテハ受諾困難ナリト云ハサルヲ得スト述ヘタリ依テ本使ハ東亞ニ於ケル平和確立ノ爲蔣政權倒壞ノ必要ナルコト右平和確立ハ佛國ノ爲ニモ得策ナルコトヲ述ヘ同時ニ軍隊ノ通過地點、軍隊數ノ明示等ハ軍ノ機密保持ノ必要上不可能ナル點ヲ篤ト説明シ明朝ノ會議ニ當リテハ貴大臣ヨリ右諸點ヲ充分説明セラレ

我方提案受諾方斡旋アリ度キ旨申述ヘ置キタリ

1822 昭和十五年八月十三日 松岡外務大臣より  
在本邦アンリー仏国大使宛

ドクー仏印總督に手交した經濟問題に関する  
わが方提案につき通報

通六機密第三五號

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ帝國ト印度支那トノ經濟通商關係緊密化ノ件ニ關シ既ニ在河内帝國總領事ヨリ印度支那總督ニ對シ別紙書翰要旨ノ通帝國政府ノ見解及提案ヲ申入濟ナル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

帝國政府ハ佛國政府カ前記帝國政府ノ提案カ帝國及印度支那ノ相互利益増進上最モ必要且適切ナル次第ヲ篤ト諒解セラレ速カニ之カ受諾方ニ付御配慮アランコトヲ希望致候右通報申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬 具

昭和十五年八月十三日

外務大臣 松岡 洋右

佛蘭西國特命全權大使

「シャルル、アルセース、アンリー」閣下

別紙

昭和十五年八月八日在河内鈴木總領事ヨリ「ドクー」

佛印總督ニ手交セラレタル書翰要旨

以書翰啓上致候陳者元來日本帝國ト印度支那トハ其ノ地理  
的地位竝ニ自然的及經濟的條件ヨリ當然密接ナル關係ヲ保  
持強化スヘク殊ニ印度支那ノ資源ヲ開發シ帝國トノ間ニ共  
存共榮ノ實ヲ擧ケ以テ東亞ノ安定及繁榮ニ貢獻スヘキハ自  
然ノ理ニシテ帝國ハ夙ニ思フ此處ニ致シ過去ニ於テ屢々印  
度支那ノ反省ヲ求メ來レル次第ニ有之候然ルニ印度支那ニ  
於テハ經濟通商其他ノ全分野ニ亘リ專ラ佛蘭西及佛蘭西人  
ノ利益考慮セラレ外國人ノ經濟活動及通商ニ對シテ極端ナ  
ル門戸閉鎖政策カ適用セラレ居リ之カ爲東亞ノ安寧福祉並  
ニ印度支那ノ利益モ犠牲ニ供セラレ以テ今日ニ至レルハ帝  
國ノ最モ遺憾トスル所ニ有之候  
依テ此ノ際印度支那ニ於テモ帝國ノ意圖ニ對應シ從來ノ不  
自然ナル各種制限ヲ撤廢シテ帝國トノ經濟提携ヲ促進シ相  
互ノ關係ヲ明朗且安定ナラシムル爲左記帝國ノ要望ニ同意

セラレンコトヲ希望致候

一、日本國ノ自然人及法人ハ印度支那ニ於テ入國、居住、旅  
行、身体財産ノ保護、動産不動産ノ取得、生業、職業及  
營業竝ニ企業ノ經營、通商、航海及航空、其他ノ諸活動  
ニ關スル一切ノ事項ニ付佛蘭西國又ハ其ノ植民地若ハ保  
護領ノ自然人及法人カ從來享受シ來レル特權の待遇下同  
一ノ待遇ヲ享受スヘシ

二、日本國ノ船舶及航空機ハ印度支那ニ於テ佛蘭西國又ハ其  
ノ植民地若ハ保護領ノ船舶及航空機カ從來享受シ來レル  
特權の待遇下同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

三、日本國ノ原産ニ係ル生産品及製造品ハ印度支那ニ於テ輸  
入、通過關稅及其他ノ課稅、稅關手續、禁止若ハ制限等  
ニ關スル一切ノ事項ニ付佛蘭西國又ハ其ノ植民地若ハ保  
護領ノ原産ニ係ル生産品及製造品カ從來享受シ來レル特  
權の待遇下同一ノ待遇ヲ享受スヘシ

本官ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

1823

昭和15年8月13日

在ハノイ鈴木總領事ヨリ  
松岡外務大臣宛(電報)

經濟問題に関するわが方提案を受諾するよう

ドクー総督説得について

ハノイ 8月13日後発

本省 8月14日前着

第一八三號

一、佛印側ニテハ西原少將ノ歸河ニ依リ帝國ノ對佛印政策カ多少穩健ニナリタルヤニ思ヒタルモノノ如ク一般ニ安堵ノ色見受けラルル處十三日同少將招待ノ總督午餐會ニ於テ本官ヨリ往電第一七六號ノ二補足旁政治協定成立スルト言ヒタルハ行過キナルモ根本問題ニ付妥協ニ達セルコトハ事實ナリト述ヘタルニ總督ハ痛ク感動ノ面持ナリシカ次テ本官ヨリ政治交渉モ斯ク進行中ナルニ付經濟問題ノ方モ速ニ進メラレ度シト督促シタルニ同總督ハ前回門戸閉鎖ノ字句ニ付反駁シタルカ日本ヘノ輸出ニ關シテハ當ラサルモ日本ヨリノ輸入ハ少額ナレハ其ノ意味ニ解ス趣旨ハ能ク諒解セルニ付出來得ル限り本國政府ヲシテ貴方提案ヲ受諾セシムヘク努力スヘシト約セリ

二、食後總務長官ト語リタル際本官ヨリ帝國ハ佛印ト經濟的提携ヲ緊密ニシ以テ益々日、佛印政治關係ヲ促進スル要

アリト云ヒタルニ同長官ハ之ニ同意シ尙佛國ハ目下獨逸ノ監督下ニ在リ獨逸ノ驥尾ニ附シテ行動セサルヲ得サル情況ニ在リ從テ英國ノ利益ニ反スルカ如キ態度ニ出ツルコトアルモ已ムヲ得サル次第ニテ如何ナルヤモ知レスト語リタリ

1824

昭和15年8月13日

在仏国沢田大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

仏印に関する交換公文案に対し軍事上白紙委任に等しい内容には応じがたい旨仏国外相回

答について

ヴィシー 8月13日後発

本省 8月14日夜着

第六八五號(極秘、館長符號扱)

往電第六八〇號ニ關シ

十三日求メニ應シ「ボードアン」外相ヲ往訪シタルニ同外相ハ只今「アンリ」大使宛回訓ヲ發シタル許リナリトテ佛國カ特ニ六月以來日本ノ要求ニ應シ好意ヲ表示シ來リタル點ヲ擧ケ之ニ對シ日本側ニ於テモ今少シク歩ミ寄りノ態度

1 仏印ルート

ヲ示サレンコトヲ切望スト前提シ第一ニハ佛印ノ現狀維持  
尊重ノ約束第二ニハ軍隊通過地域及使用飛行場ノ指定並ニ  
兵力概數ノ明示ヲ得タシト述ハタルニ依リ本使ハ日本側提  
案ノ速カナル承諾無キハ甚タ遺憾ナリ殊ニ第二ノ點ハ昨日  
モ御話セシ通リ軍ノ機密保持上明示スルコト絕對ニ不可  
ナルニモ拘ラス此ノ點ニ付尙説明ヲ求メラルルコトハ只交  
渉ヲ永引カセルノミニテ大局上面白カラサル次第ヲ告ケタ  
ルニ外相ハ佛國トシテハ如何ナル大軍上陸スルヤ不明ナル  
ニ對シ白紙委任ヲ發給スルコトハ如何ニシテモ困難ナリ況  
ヤ支那側モ國境ニ軍隊ヲ集中セルヤノ情報アルニモ鑑ミ日  
本軍カ海防方面ニ上陸スルコトトモナレハ支那軍モ越境シ  
テ東京カ戰場ト化シ延テハ全領土ノ動搖ヲ來ス虞モアル次  
第ナリ右ノ危險ヲ忍ヒテ迄モ日本側ノ要求ニ應セントスル  
氣持ニナリ居ル次第ナレハ佛側這般ノ苦衷ヲモ察セラレ大  
體ノ兵力位ハ何等カノ方法ヲ以テ承知シ得ル様致度ク全ク  
無力ノ佛領印度支那ノコト故ニ日本トシテハ自由ニ行動シ  
得ル次第ナルモ左リトテ弱リ目ニアル佛政府ニ對シテ飽迄  
押附ケノ態度ヲ以テ臨マルルハ武士ノ情ニモ反スルコトト  
思ハルルヲ以テ此ノ點佛國政府ノ立場ニモ立タレ國民ニ對

シテ其ノ面目ヲ失ハシメサル爲佛國側ノ言分モ充分御考慮  
ヲ願フ様特ニ松岡大臣ニ取次アリタシト懇請シ居リタリ

~~~~~

1825

昭和15年8月17日

松岡外務大臣より  
在ジユネーブ小林(龜久雄)総領事宛  
(電報)

アンリ大使が仏印に関する交換公文は日本側  
軍事要求を全面承諾ではなく検討する趣旨と  
したいと提議し松岡外相強く反駁について

本省 8月17日後9時30分発

第六九號(至急、極秘、館長符號扱)

本電往電第六六號ノ方法ニ依リ在佛大使ニ電報アリタシ

第三七八號

往電第三七二號ニ關シ

十五日佛大使本大臣ヲ來訪、政府ノ訓令ニ基クトテ、佛國  
側ハ先ヅ日本政府ガ他ノ一切ノ交渉ニ先立チ佛印ノ現狀及  
領土保全等ノ尊重ヲ約スベキコトヲ要求スト爲ス點及右約  
束ヲ取付ケタル後ニ於テモ日本側軍事的要求ノ全部ヲ承諾  
スベシトハ云ハズシテ之ヲ検討スベシト爲ス點ニ於テ從來

ト異ル態度ヲ表示セル書キ物ヲ手交セルニ依リ、本大臣ハ先日貴使ハ原則トシテ我方要求ヲ應諾ス、唯、佛國ノ体面ノ立ツ如キ形式ヲ考慮セラレ度シト回答セラレタルニ非ズヤト云ヒタルニ、大使ハ佛國側トシテ承諾シ得ル限度ニ於テ日本側軍事的要求ヲ應諾スベシト云フ趣旨ヲ述ベタル積ナリ佛國側トシテハ日本側要求ノ内容ヲ豫メ明確ニシ且領土ノ安全ニ關スル保障ヲ得度キ旨述ベタルニ依リ、冒頭往電次官會談ノ際ト同様ノ問答ヲ繰返シタル後、本大臣ヨリ佛國側ガ本大臣ノ確言ヲ信ゼズ此ノ上遷延的態度ヲ續ケル限リ、是レ以上話合フモ無益ニシテ、且我方軍事的要求ハ急ヲ要スルモノナレバ、話合ヲ打切り我方トシテ必要ナル軍事行動ヲ取ルノ外無キニ至ルヤモ測ラレズ右ハ日本政府モ日本軍モ欲セザル所ナルニ依リ、大局的見地ヨリ速ニ我方要求ヲ其儘受諾セラルル様本國政府ニ傳達アリ度シト述ベタルニ、大使ハ右傳達方約セリ

本電及貴電第六八五號等ニ依リ看取セラルル如ク佛側態度ハ其ノ後硬化シ居リ、右ニ八種々ノ原因アルベキ處其ノ何レタルニ拘ラズ、我方要求ハ貫徹セザルベカラザルモノナリニ付佛側ヲシテ右ヲ其ノ儘應諾セシムル様貴使ヨリモ此

上共極力御説得アリ度

1826 昭和15年8月17日 在仏国沢田大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

仏印問題に関する東京交渉の合意に向けた基礎案を仏国外相提示について

ヴィシー 8月17日後発  
本省 8月18日夜着

第六九〇號(至急、館長符號扱)  
十七日「ボードアン」外相ノ求メニ應シ往訪シタル處同外相ハ十五日閣下ト「アンリー」トノ會談ニ關スル電報ニ接シタルコトヲ告ケ茲ニ協定ノ基礎ヲ見出シ得ル感ヲ得テ喜ヒ居ル次第ニテ早速昨日閣議ニ諮リタル結果大體左ノ如キ「ライン」ニ於テ是非共之ヲ纏ムル様今朝「ア」大使宛訓令ヲ發シタリ

一、日本側ニ於テ佛印ノ領土主權ヲ尊重ス

二、右ニ對シ佛側ハ極東ニ於ケル日本側ノ優越地位ヲ承認ス

三、右ノ結果トシテ佛國側ハ軍隊「トンキン」州通過ニ關スル日本側今回ノ要求ヲ承認ス

但シ其ノ詳細ハ現地ニ於テ佛印軍憲ト日本軍憲トノ間ニ  
協定セシム

三、經濟問題ニ付テハ佛印ニ於テ日本ニ對シ何レノ第三國ヨ  
リモ「フアボラブル」ナル地位ヲ認ム

但シ發表ノ際ニハ目下對獨敗戰ノ後ヲ受ケ大イニ弱リ居ル  
佛國ノ面子ヲ立ツルト共ニ政府トシテ國民ニモ納得セシメ  
得ル形式トスルコト是非共ニ必要ニシテ右見地ヨリ先般松岡  
大臣カ「ア」大使トノ會談ノ内ニ述ヘラレタル點(壽府宛  
貴電合第一七〇五號ヲ指シ居ル如シ)即チ日本側ニ於テ領  
土の意圖ヲ藏セラレサルコトヲ何等カノ形ニ於テ表明セラ  
レタク右趣旨ニテ松岡大臣ニ於テ是非之ヲ納レラレ速ニ協  
定成立スル様貴使ヨリ斡旋アリタシキ述ヘタルニ依リ本使  
十五日會談ノ電報ニ接シ居ラサルヲ以テ何トモ應答出來兼  
ヌルモ御話ノ次第ハ早速之ヲ取次クヘシト答ヘ置キタリ

1827

昭和15年8月21日

松岡外務大臣より  
在ジュネーブ小林総領事宛(電報)

仏印問題に関する合意基礎案と右に基づく文

換公文案をアンリ大使が提議し松岡外相もわ

が方交換公文案の修正案提議について

別電 昭和十五年八月二十一日發松岡外務大臣より

在ジュネーブ小林総領事宛第七二號

右仏國側基礎案の要旨

本省 8月21日前1時0分發

第七一號(至急、館長符號扱、極祕)

左記往電第六六號ノ方法ニ依リ至急在佛大使へ轉電アリタ  
シ

第三八二號

貴電第六九〇號ニ關シ

二十日佛大使本大臣ヲ來訪、政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ要  
旨別電第七二號ノ書キ物及之ヲ基礎トセル交換公文案ヲ提  
示セルニ依リ、本大臣ハ右ニ付佛大使及政府ノ努力ヲ謝ス  
ルト共ニ佛側申出ニ付キテハ右書キ物及案文ヲ檢討ノ上意  
見ヲ述ベキガ、唯一言シ度キハ、右ニ經濟問題モ含マセ  
アルモ軍事問題ハ急ヲ要スルニ依リ之ガ解決ヲ先ト致シ度  
シ軍事問題ノ細目ハ現地ニ於テ討議セシメテ可ナリ尙本件  
協定方式ノ詳細ニ付キテハ次官等ヲシテ貴使ト本日中ニモ  
交渉セシメ度シト述ベ尙、我方ニ於テ用意セル軍事問題ニ

關スル交換公文案（我方軍事的要求及我方ハ佛印ノ領土ニ對シ侵略の意圖ヲ有セザル旨記載セル往翰案竝ニ先方右要  
求ヲ承諾スル旨及東亞ニ於ケル我方ノ優越的地位ヲ承認ス  
ル旨記載セル來翰案）ヲ提示セルニ、大使ハ佛側提案ガ佛  
國ノ面子ヲ害セズ「フエア」ナル取極メナルコトヲ述ベ居  
タルガ、更ニ本大臣ハ時間ヲ「セーヴ」スル爲、經濟問題  
ヲ切り離スノ要ヲ力説シ佛案ニ依レバ經濟問題ニ付テハ單  
ニ日本ノ極東ニ於ケル優越の利益又ハ日本ニ對シ佛印ニ於  
テ第三國ニ比シ優越セル地位ヲ承認ス云々トアルノミニテ  
我方ノ佛本國待遇要求トハ大ナル距タリアリ若シ貴方ガ斯  
カル案ヲ固執セラルレバ交渉ハ再ビ「デッドロック」ニ陥  
ルベシ經濟問題ニ付キテハ佛側ニ於テ我方ノ佛本國待遇要  
求ニ出來得ル限り應ズル様現地交渉方訓令スベキ旨貴方ヨ  
リ回答セラルルノ途モアルベキガ、何レニスルモ軍事問題  
先決ノ要アル旨主張セリ

（別電）

本省 8月21日前1時0分發

第七二號（至急、館長符號扱、極秘）

左記往電第六六號ノ方法ニ依リ至急在佛大使へ轉電アリタ  
シ

第三八三號

一、從來ノ會談ニ於テ松岡大臣ハ日本ハ一九〇七年ノ日佛協  
定ノ精神タル亞細亞大陸ニ於ケル日佛各自ノ地位及領土  
權ノ維持ニ基礎ヲ置ク政策ヲ忠實ニ遵奉シ來レル旨言明  
セラレ又今次ノ軍事的要求ハ支那事變處理上ノ必要ニ基  
クモノナリト述ヘラレタリ仍チ本件便宜供與ハ事變解決  
ト共ニ其ノ必要ヲ失フベキモノニシテ又佛印ト支那間國  
境地帯ニ限定セラルヘキモノナリ

從テ前記協定ノ精神ニ基ク諸々ノ保障、殊ニ印度支那ニ  
對スル佛國主權ノ承認（佛側提示ノ交換公文案ニハ佛印  
ノ領土保全及印度支那聯邦ノ全構成分子ニ對スル佛國主  
權ノ尊重トアリ）ヲ確認セラルルコトハ困難ニ非ザルベ  
シ

二、右確認ガ與ヘラルレバ佛側ハ極東ニ於ケル日本ノ政治上  
及經濟上ノ優越の利益ヲ承認スルノ用意アリ  
三、經濟事項ニ關シ佛側ハ一九〇七年ノ宣言ノ精神ニ依リ佛  
印ニ於テ日本及日本人ニ對シ他國及他國人ニ優越スル地

1828

位ヲ保障スルノ方法ヲ遲滯無く考究スルノ用意アリ尤モ右地位ハ六十年來佛印ノ繁榮ノ爲努力シ來レル佛國人ノ地位ト全然同等タルコトヲ得ザルベシ

四、軍事問題ニ關シテハ佛側ハ日佛政府ヨリ各々出先軍司令官ニ對シ左記訓令ヲ發シ話合ヲ遂ゲシムルコトニ同意ス  
(イ)日本軍ノ要望及之ヲ充スベキ方法ニ關スル正確ナル判斷ニ資スル爲兩國司令官ハ必要ナル情報ヲ極祕交換スベシ但シ「トンキン」州ト支那國境地帯ニ於ケル作戦ノ遂行ニ關スルモノニ限ル

(ロ)兩國司令官ハ右ノ結果、日本軍ニ必要ト判斷セラレタル便宜供與方ニ付卒直ナル話合ヲ行フベシ

(ハ)日本軍ハ友好國ヨリ受クル「オスピタリテ」ニ關スル規則ヲ尊重スベシ但シ費用ハ日本側ノ負擔タルベシ又移動及運輸ハ嚴ニ軍事行動ノ必要ニ限ラルベキト共ニ佛國軍憲ニ依リ保障セラレ、其ノ管理下ニ置カルベシ



昭和15年8月21日

松岡外務大臣より  
在ジュネーブ小林総領事宛(電報)

仏印問題に関する交換公文案をめぐる大橋外

務次官とアンリ大使の意見交換について

本省 8月21日午後2時10分発

第七三號(至急、館長符號、極祕)

左記往電第六六號ノ方法ニ依リ至急在佛大使へ轉電アリタシ

第三八四號

往電第三八二號ニ關シ

二十日夜更ニ大橋次官佛大使ト會談ス(西局長同席)

次官 佛案ニハ日佛協定等迄モ持出シ居ルガ其ノ締結當時

トハ事態一變セル今日期カルモノヲ持出スコトハ本

件ノ解決ヲ紛糾セシムルニ過ギズ

大使 右ハ寧ロ大臣ヨリ言出サレタルニ依リ之ヲ基礎トシ

テ起案セルナリ

次官 大臣ハ議論ノ途中ニ於テ日本ガ佛印ノ領土ニ對シ侵

略的意圖ヲ有セザルコトハ過去ニ於テ斯カル協定ヲ

締結セル精神ニ鑑ルモ明カナリトノ點ヲ示ス爲觸レ

ラレタルニ過ギズ

佛案ニ於テハ軍事問題ハ一切現地交渉ニ譲リ軍隊通

過外ニ項目ニ付原則上ノ承認ヲ與ヘオラズ此點不都

大使 合ナリ又便宜供與ヲ國境地帯ニ限定シ居ル意味如何  
東京州ト云フ如キ廣汎ナル地域ニ付便宜供與ヲ約ス  
ルコトハ不可能ナリ依テ國境ニ沿フ左程狹カラザル  
地帯ニ限定セル次第ナリ

日本軍ガ利用スベキ飛行基地ニ於ケル警備部隊ノ駐  
屯ハ之ヲ承認シ得ズ

次官 斯クテハ佛側ニ依ル便宜供與ハ殆ンド意味無キコト  
トナル旁々我方案ニ依ルコトトシタシ又經濟問題ハ  
別途處理シ度シ

大使 佛案ハ日本側言分ヲ參酌シテ作成セルモノナレバ  
（日佛協定ヲ引用スルノ要アリ又經濟問題モ佛案ニ  
多少ハ文句ヲ追加シ妥結ノ途アリト述ブ）之ニモ異  
議ヲ唱ヘラルルハ結局日本政府部内ニ佛印問題ニ付  
佛側ト話合ヲ纏ムルコトニ反對スル分子アリ徒ニ遷  
延策ヲ講ゼントセラルルコトヲ示スモノナリ

次官 右ハ大ナル誤解ナリ却テ佛側ニ於テ遷延策ヲ執ラン  
トシツツアルニ非ズヤトノ疑惑ヲ懷カシム  
我方ハ更ニ佛側ノ希望ヲ汲ミ本件軍事的要求ハ臨時  
例外的性質ノモノナルコト、軍事行動ニ伴フ費用ハ

我方負擔スベキコト、右軍事行動及費用ニ關スル細  
目ニ付テハ現地日佛官憲間ニ極秘打合ヲ行ハシムベ  
キコト等ノ諸點ヲ今朝ノ我方案中ニ追加シ本件ヲ  
解決スル外ナシト考ヘ居レルニ付至急右案ヲ本國政  
府ニ取次ガレ、政府説得方御努力アリ度シ

佛側ニ於テ此ノ上解決ヲ遷延スルニ於テハ佛印ニ於  
テ不測ノ事件ヲ生ズルガ如キコトアルトモ責ハ佛側  
ニ在リ

大使 兎ニ角御申出ノ次第ハ本國政府ヘ傳達スベシ

二、就テハ貴使ハ佛側ヲシテ右我方修正案ヲ速ニ受諾セシム  
ル様極力御努アリ度ク尙佛外相ノ氣分ハ屢次ノ貴電ニ依  
レバ常ニ協調的ナルニ拘ラズ「アンリー」大使ヨリ正式  
ニ持出シ來ル回答文中ニハ問題ノ解決ヲ逆轉セシムルガ  
如キ部分アルコトハ當方ニ於テ不可解トナシ居ル所ナル  
旨可然指摘シ置カレ度シ

三、「アンリー」大使トノ會談ニ依リ得タル印象ニ依レバ佛  
側ニ於テハ若シ日本側要求ヲ容認セバ佛印ハ侵略セラル  
ヘシトノ危惧ノ念相當深キガ如シ依テ佛側ニ安心ヲ與フ  
ル爲軍側トモ協議ノ上、若シ佛側ガ我方要求ヲ其ノ儘受

諸セバ軍隊通過地點、使用飛行場數、右飛行場警備兵數  
等我方要求ノ具体的内容ノ輪廓ヲ極秘ノ含ミヲ以テ佛側  
ニ内示スルコトガ本件解決ヲ促進スルノ途ナルベキカト  
思考シ居レリ右貴使限リ御含ミ迄

1829

昭和15年8月22日 松岡外務大臣より  
在ジュネーブ小林総領事宛(電報)

仏国側疑念払拭のため西欧亜局長よりアンリ

大使に対しわが方軍事要求の具体的概要を極

秘内示について

付記 右軍事要求の具体的概要

本省 8月22日後8時0分発

第七五號(至急、館長符號扱、極秘)

左記往電第六六號ノ方法ニ依リ至急在佛大使へ轉電アリ度

第三八五號

往電第三八四號ノ三、二關シ

二十一日夜歐亞局長佛大使ヲ往訪、軍事上ノ機密事項ヲ通  
報スルコトハ本來我方ノ欲セザル所ナルモ佛側ガ我軍事的  
要求ニ付想像以上ノ疑惑ヲ有セラルルコトガ二十日夜ノ會

談ニ於テ觀察セラレタルニ依リ更ニ軍當局ト協議ノ結果佛  
側ノ右疑惑ヲ解キ本件ノ迅速解決ヲ圖ル爲我要求内容ノ輪  
廓ヲ特ニ佛側へ極秘内示スルコトナレリトテ「トンキン」  
州ニ於ケル使用飛行場數、右ヲ使用スル飛行部隊及警  
備スル部隊竝ニ右部隊等ニ對スル補給品輸送ニ當ル部隊等  
同州内ニ配置セラルベキ日本軍兵數及軍隊通過經路(通過  
部隊及之ニ附隨シテ必要ナル部隊ノ兵數ハ當時ノ事情ニ依  
ルベク目下之ヲ限定シ得ザルベキ旨附記ス)ノ概略ヲ記載  
セル書キ物ヲ手交シ之ニテ本件ニ關シ我方トシテ爲シ得ル  
コトハ凡テヲ爲シ盡セルニ依リ此ノ上ハ貴使ヨリ右ヲ本國  
政府へ御傳達相成リ速ニ我方要求ガ其ノ儘受諾セラレンコ  
トヲ希望スルノミナリト述ベタルニ大使ハ右傳達方ヲ約セ  
リ

(付記)

八月二十一日夜歐亞局長ヨリ「アンリー」大使ニ提示

(昭和十五、八、二十起草歐三)

我方軍事的要求ニ關スル具体的事項

(イ)日本陸海軍ノ使用スベキ「トンキン」州内飛行場ノ數

1 仏印ルート

差當リ「ハノイ」(Hanoi)「フランチエン」(PhuLang Thuong)及「フトウ」(Phutho)附近各一箇所ヲ常駐飛行場トシテ使用ス但シ狀況ニ依リテハ印支國境ニ近接セル他ノ飛行場ヲ使用スルコトアルヘシ

(ロ)「トンキン」州内ニ配置セラルヘキ日本軍兵力ノ概數

前記飛行場ノ警備ニ要スル部隊、右飛行場ヲ使用スル飛行部隊竝ニ右部隊及現ニ印支國境附近支那領内ニ在ル日本部隊ニ對スル補給品等ノ輸送ニ關スル任務(右輸送ノ警備ヲ含ム)ニ従事スル部隊陸海軍計五、六千ヲ越ヘス

(ハ)日本軍隊ノ「トンキン」州内通過經路

對支作戰ノ必要ニ應シ「ハイフォン」(Haiphong)―「ハノイ」(Hanoi)―「ラオカイ」(Lao Kay)ノ線ニ沿フ地帯竝ニ「ハノイ」(Hanoi)―「ランソン」(Langson)ノ線ニ沿フ地帯ヲ日本軍隊通過ノ爲使用スルコトアルベシ

右通過部隊ノ兵力(右部隊及之ニ對スル補給品等ノ輸送竝ニ右輸送ノ警備ニ要スル部隊ノ兵力ヲ含ム)ハ前項(ロ)以外トシ目下之ヲ限定シ得ス

註一、日本軍隊又ハ補給品輸送ノ爲若シクハ輸送船警備

ノ爲帝國海軍艦艇若干隻ヲ「ハイフォン」(Haiphong)ニ出入セシムルコトアルヘシ

註二、専用電信施設(無線ヲ主トス)ハ當然右日本陸海軍ニ伴フモノトス

1830

昭和15年8月23日 松岡外務大臣より  
在ジュネーブ小林総領事宛(電報)

經濟問題に関するわが方提案を通報した八月

十三日付公信に対し回答を得たき旨アンリ大

使へ要請について

付記 わが方よりアンリ大使へ提示した回答案

本省 8月23日後10時30分発

第七六號(極秘、至急)

往電第六六號ノ方法ニ依リ本電及別電第七七號至急在佛大使へ轉電アリ度

第三八八號

佛印經濟問題ニ關シ往電第三七二號ノニ、末段ノ次第アリタルニ依リ本大臣ヨリ八月十三日附書翰ヲ以テ「アンリ」大使ニ對シ同月六日ノ鈴木總領事ヨリ佛印總督ヘノ申入レ

内容（入國及企業等、船舶及航空機、竝ニ通商ニ關スル佛本國待遇要求）ヲ通報スルト共ニ本件我方要望ガ速ニ達成セラルル様佛國政府ニ於テ配慮アリ度キ旨申入レ置キタルガ其ノ後佛側ヨリ往電第三八三號ノ三、及三、ノ如キ提議アリタルニモ鑑ミ二十三日夜歐亞局長ヲシテ前記十三日附往翰ニ對シ「アンリー」大使ヨリ別電第三八九號<sup>編注</sup>要領ノ回答ヲ得タキ旨同大使ニ申入レシメタルニ大使ハ本國政府ヘ右傳達方約セリ

編注 別電第三八九号は見当らないが、回答案については本文書付記参照。

（付記）

以書翰啓上致候陳者八月十三日附貴翰通六機密第三五號ヲ以テ印度支那ト日本國トノ經濟通商關係緊密化ノ件ニ關シ御申越相成リ敬承致候  
佛國政府ハ東亞ニ於ケル日本國ノ政治上及經濟上ノ卓絶ナル地位ヲ承認スルト共ニ前記貴翰ヲ以テ御通報相成タル各種事項ニ關スル日本國政府ノ要望ノ趣旨ハ之ヲ尊重シ其ノ

具体的實現ニ付テハ好意的精神ヲ以テ前記方針ニ基キ努力スベク之カ爲速ニ印度支那總督ヲシテ日本側當局トノ間ニ交渉セシムベキ旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候  
右回答申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

1831

昭和15年8月24日 松岡外務大臣より  
在ジュネーブ小林総領事宛（電報）

八月十三日付公信に対する回答案をめぐる西  
歐亞局長とアンリ大使の応酬について

本省 8月24日後9時0分發

第七八號（至急、極秘）

往電第六六號ノ方法ニ依リ左記至急在佛大使ヘ轉電アリ度  
第三九一號

往電第三八八號會談ノ際歐亞局長ヨリ提議セル佛大使回答案ニ付大使ハ本案ニ依レバ佛側ハ日本側要求ヲ其ノ儘受諾スルコトトナリ之ニ同意シ得ズト述ベタルニ依リ局長ハ我方要求ヲ全部受諾セヨトノ趣旨ニ非ズ今後ノ交渉ノ指導精神ヲ示シタルモノナレバ佛側ニ於テ受諾シ得ザル筈ハ無カ

ルベシト應酬シタリ

次デ大使ハ最モ重要ナル點ハ、佛側トシテハ極東ニ於ケル日本ノ優越的地位ヲ承認シ差支無キモ、右ハ日本側ガ政治軍事問題ニ關スル先般ノ佛側提案(日佛協約ヲ引用シ佛印ノ領土尊重等ノ點ヲ含ム)ニ同意セラルル場合ノ代償トシテナリト述べタルニ依リ、局長ハ我方ガ佛印ノ領土ニ對シ侵略的意圖ヲ有セザル旨ハ既ニ右問題ニ關スル我方案文中ニモ謳ヒ、佛側希望ヲ容レアルニ付右ニテ充分ナリト應酬シタルニ、大使ハ日本案ハ現在侵略ノ意圖無シト云フニ過ギズ協定成立後ハ侵略セラルルヤモ知レズト云ヒタリ依テ局長ハ日本政府ガ一旦言明セル以上御懸念ノ如キコトハアリ得ズ然ルニモ拘ラズ右様ノコトヲ言ハルルハ我方ヲ信用セザルモノト言ハザルベカラズ協定文ノ書キ方ハ如何様ニモアレ、相互信頼ガ肝要ニシテ之無クシテハ如何ナル協定ヲ結ブモ無意味ナリト述べ置キタリ

1832

昭和15年8月24日

在ジュネーブ小林総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

わが方提案を承諾し仏印問題に関する東京文

渉を妥結するよう沢田大使から仏国外相へ要請について

ジュネーブ 8月24日後発

本 省 8月25日着

第二〇一號(至急、極秘、館長符號扱)

佛發貴大臣宛電報

第六九八號

二十三日「ボードカン」外相ノ求メニ應シ往訪シタル處同外相ハ東京ニ於ケル日佛會談ニ關聯シ右ハ決シテ行詰リトナリタリトハ解シ居ラサルモ未タ軌道ニ乘リ居ラサルコトヲ遺憾トストテ從來屢々繰返シタル佛國政府ノ面目ヲ立ツルコトヲモ顧慮スル協定ニ達センコトヲ切望シ出發點トシテ佛國政府ノ面子ヲ立テラルルコトヲ考ヘ吳ルレハ他ノ點ハ之ヲ軌道ニ乘スルハ難カラスト考フル旨ヲ述ヘタルニ依リ本使ハ會談ノ電報ニ接シ居ラサルヲ以テ何トモ應酬出來サル旨答ヘ置キタリ然ルニ右會談直後「クーリエ」便ニ依ル壽府經由關係電報ヲ接受シタルニ依リ本使ハ再び同外相ヲ往訪シ貴電第三八五號ニ言及シ當初貴方ノ要求セラレタル我方所要ノ飛行場數、兵數竝ニ軍隊通過經路等ヲ内示シ

タル趣ナルカ右軍事上ノ機密事項ニ屬スルコト迄通報シテ貴方ニ信賴ヲ示ス以上之ニテ速ニ成立セシメラルルコト諸般ノ情勢ヨリ見テ切望ニ堪エス貴方ニ於テハ妥協の精神ニ依リ協定ノ成立スルコトヲ切望スル旨屢々本使ニ御話アリタルニ拘ラス東京ニ於テ提示ノ貴方提案中ニハ問題ノ解決ヲ紛糾セシムルカ如キ部分アルコトハ帝國政府ニ對シ不可解ナル印象ヲ與ヘ居ルカノ如ク考ヘラル殊ニ話合開始以來三週間ヲ經テ未タ妥結ニ達セサルコトハ面白カラサル關係ヲモ招來スト考ヘルニ依リ是非共速ニ我方提案ヲ承諾セラレンコトヲ切望スルモノナリト述ヘタルニ外相ハ右極秘内報ノ點ハ多トスル所ニシテ曩ニ問題ヲ軌道ニ乗セ得ル希望ヲ失ハスト言ヒタルハ斯ル點ヲ指シタルモノナリ其ノ他ノ點ハ斷シテ問題解決ヲ遷延セシムルトカ固執スル意思ハ毛頭有セサルモ唯佛國トシテハ慘メナル對獨休戰ヲ爲シタル後輿論ノ手前屈服ニ屈服ヲ重ネ佛印迄モ占領セラルト言ハルルコトハ政府トシテ苦シキ立場ニ立ツコトハ充分松岡大臣ノ御同情ヲ得度ク右ニ付輿論ノ攻撃ニ對シテ本件ハ決シテ佛印ノ占領ニアラス友好精神ニ依リ合意成立ノ結果日本軍ニ便宜ヲ供與スルモノナリト説明シ得ル爲領土侵略ヲ意

圖セラレサル趣旨ノ確認ヲ得度キコトハ貴大使トノ會談ノ當初ヨリ熱望シタル所ニシテ決シテ途中ヨリ新ナルコトヲ提案シタル次第ニアラス右出發點サヘ明カニナレハ他ノ點ハ自ラ話合モ附クモノト思考シ居ル故今一應右東京ニ取次方懇請スル旨ヲ述ヘタリ依テ本使ハ斯クテ事ノ遷延スルハ面白カラス貴方ニ於テモ速ニ協定(ヲ)成立セシムル様政府部内ノ意見ヲ纏メラレンコトヲ希望スル旨答ヘ置キタリ

1833

昭和15年8月28日

松岡外務大臣より  
在ハノイ鈴木総領事宛(電報)

### 仏印問題に関する東京交渉妥結について

別電一

昭和十五年八月二十九日發松岡外務大臣より

在ハノイ鈴木総領事宛第一九七号

仏印問題に関する往復書簡来簡案要領

二 昭和十五年八月二十八日發松岡外務大臣より

在ハノイ鈴木総領事宛第一九八号

仏印問題に関する往復書簡往簡案要領

本省 8月28日後10時20分發

第一九六號(至急、極祕、館長符號扱)

二十五日「アンリー」大使大橋次官ヲ來訪訓令ニ依ルトテ佛印ノ政治軍事問題及經濟問題ニ關スル別電第一九七號要領ノ來翰案ヲ示シ承諾ヲ求メタルニ依リ次官ヨリ右案ニハ軍隊通過外二項目ニ關スル我軍事的要求(一)東京州<sup>トシキ</sup>ニ於テ日本軍ノ使用スベキ飛行場數(二)之ヲ使用スル飛行部隊及警備スル部隊並ニ右諸部隊及現ニ國境附近支那領内ニアル日本部隊ニ對スル補給ニ當ル部隊等東京州内ニ配置セラルベキ日本軍兵數(三)軍隊通過經路(四)ニ付テハ通過部隊及之ガ警衛、補給等ニ必要ナル部隊ノ兵數ハ當時ノ情況ニ依ルベク目下之ヲ限定シ得ザル旨附記ス)ノ輪廓ハ軍當局ト協議ノ上曩ニ佛側ハ極祕内示濟ナリ)ヲ受諾スル旨ノ明記ナキ點ヲ追及シ右明記方極力主張シタルモ、大使ハ右ヲ公文ニ明記スルコトハ佛ノ体面上不可能ナルモ事實上現地交渉ニ於テ右要求ハ何レモ之ヲ承認スルコトトナリ居ル旨明言シ右ニテ妥結方固執セリ(尙大使ハ交渉成立ノ際モ取極ハ極祕トシ發表セザルコトトシ度キ旨述べ我方モ之ニ同意セリ)

依テ軍側トモ協議ノ結果本件ノ迅速解決ヲ圖ル爲我方ヨリ

要旨別電第一九八號ノ回答ヲ發スルコトニヨリ之ヲ應諾スルニ決シ同日夜歐亞局長ヲシテ大使ニ右回答案ヲ提示セシメタルニ大使ハ之ニ異議無ク念ノ爲政府ニ請訓セリ

右來往翰ハ一兩日中ニ署名ノ上交換ヲ了スヘキ見込ミナルニ付軍事問題ニ付テハ西原少將ヘ右御傳達ノ上可然下準備ニ取掛ラルル様致シ度

(委細ハ三十日貴地着ノ日航秋元社員ニ托送ノ機密信(飛行場二館員ヲ派シ受取ラレ度シ)ニ依リ承知セラレ度シ)

尙我方トシテハ本件取極ノ内容ノミナラス差當リハ右取極成立ノ事實モ發表ヲ差控工度キニ付貴地通信員等ヨリ本件報道ヲ爲ササル様此上共嚴重御配意相成度  
佛ヘ轉電セリ

(別電二)

本省 8月29日午前0時0分發

第一九七號(極祕、至急、館長符號扱)

佛國ハ極東ニ於ケル日本ノ政治及經濟上ノ優越的利益ヲ認ム  
依テ佛國ハ日本ガ極東ニ於ケル佛國權益特ニ佛印ノ領土保

全竝ニ佛印聯邦ノ凡テノ部分ニ對スル佛國ノ主權ヲ尊重スルノ意向ヲ有スル旨ノ保障ヲ佛國ニ與フベキコトヲ期待ス經濟問題ニ付テハ佛國ハ日本國及其ノ臣民ニ對シ出來得ル限リ最モ有利ニシテ且如何ナル場合ニモ他ノ外國ニ比シ優越スル地位ヲ保障スルノ方法ニ付速ニ商議スベシ

佛國ハ日本側軍事要求ハ專ラ支那事變解決上ノ必要ニ基ケコト、從テ臨時的ニシテ事變解決ノ上ハ消滅スヘキコト竝ニ支那ニ面スル佛印ノ邊境州ニ限ラルルコトヲ了承ス右條件ノ下ニ佛國ハ佛印ニ於ケル佛司令官ニ對シ日本司令官トノ間ニ右軍事問題處理方命スルノ用意アリ日本側要求何レモ豫メ右合意ヨリ除外セラレス且佛側軍當局ニ對スル訓令ハ右ニ付權限ヲ制限セサルヘシ

右交渉ハ左記條件ニ依リ行フコトトス  
一、兩司令官ハ日本軍ノ必要トスル所ノモノ及之ヲ満足セシメ得ヘキ方法ヲ正確ニ知ラシムヘキ情報ヲ交換スヘシ右必要トスル所ノモノハ前記佛印支邊境州ニ於ケル作戦行動ニ關スルモノニ限ラルヘシ

一、右情報交換ニ次キ軍事の便宜供與ノ爲日佛軍當局間ニ相互信頼的接觸行ハルヘシ

一、佛國ハ右各種便宜供與ニ關スル費用ヲ一切負擔セズ本件

便宜供與ハ嚴ニ作戦上ノ必要ニ限ラレ且佛側軍當局ノ仲介ニ依リ其ノ「コントロール」ノ下ニ行ハルヘシ

一、日本ハ自己ノ戰爭行爲ニ依リ竝ニ日本軍隊ノ存在自体ガ佛印内ニ誘致スルコトアルヘキ敵ノ戰爭行爲ニ依リ佛印ノ蒙ルヘキ損害ヲ賠償スベシ

以上

(別電二)

本省 8月28日後10時20分發

第一九八號(極秘、館長符號扱、至急)

(前半ニ於テ佛側來翰ノ全文ヲ記載シ之ヲ受領セル旨ヲ述ブ)

日本政府ハ佛側書翰ニ豫見セラレタル交渉ニ於テ日本側要望力速ニ達成セラルヘキコトヲ期待シ前記佛側申出ノ次第ヲ受諾スルト共ニ佛國政府ヨリ至急現地官憲ニ對シ所要ノ訓令ヲ發セラレンコトヲ要請ス

1834

昭和15年8月30日

松岡外務大臣より  
在ハノイ鈴木総領事、在ジユネーブ小  
林総領事他宛(電報)

仏印問題に関する松岡・アンリ往復書簡の交換完了について

付記 昭和十五年八月三十日付松岡外務大臣より在

本邦アンリ仏国大使宛公信欧三機密第三八号  
仏印問題に関する交換公文わが方往簡

本省 8月30日後8時30分発

合第一九三六號(大至急、館長符號扱、極秘)

八月三十日午後一時本大臣ト在京佛國大使トノ間ニ佛印問題ニ關スル書翰(既電ノ趣旨ノ案文ニ其ノ後多少修正ヲ加ヘ本件ハ軍事占領ノ性質ヲ有スルモノニ非サルコトヲモ明カニセリ)ノ交換ヲ了セリ既電ノ通右極秘御含ミ迄

本電宛先 英、米、南京、河内、廣東、上海、北京、壽府  
壽府ヨリ獨、伊、蘇、佛へ轉電アリ度  
廣東ヨリ香港へ轉電アリ度

(付記)

歐三機密第三八號

以書翰啓上致候陳者昭和十五年八月三十日附貴翰ヲ以テ左ノ通御申越相成敬承致候

本使ハ佛蘭西國政府ハ極東ノ經濟的及政治的分野ニ於ケル日本國ノ優越的利益ヲ認ムル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

依テ佛蘭西國政府ハ帝國政府ニ於テ日本國ガ極東ニ於ケル佛蘭西國ノ權利及利益特ニ印度支那ノ領土保全竝ニ印度支那聯邦ノ全部ニ對スル佛蘭西國ノ主權ヲ尊重スルノ意向ヲ有スル旨ノ保障ヲ佛蘭西國政府ニ與ヘラレンコトヲ期待スルモノニ有之候

經濟的分野ニ關シテハ佛蘭西國ハ印度支那及日本國間ノ交易ヲ増進スルト共ニ印度支那ニ於テ日本國及其ノ臣民ニ對シ出來得ル限り最モ有利ニシテ且如何ナル場合ニモ他ノ第三國ノ地位ニ比シ優越スル地位ヲ保障スルノ方法ニ付速ニ商議スルノ用意有之候

日本國ニ於テ佛蘭西國ニ要求セラレタル軍事上ノ特殊ノ便宜供與ニ付テハ佛蘭西國ハ右便宜供與ハ帝國政府ノ趣旨トスル所ハ專ラ蔣介石將軍トノ紛争解決ヲ圖ラントス

ルニ在ルコト從テ右ハ臨時的ニシテ該紛争解決セラレタルトキハ消滅スヘキモノナルコト竝ニ右ハ支那ニ境スル印度支那ノ州ニ限り適用セラルルモノナルコトヲ了承致候右條件ノ下ニ佛蘭西國政府ハ印度支那ニ於ケル佛蘭西國軍司令官ニ對シ日本國軍司令官トノ間ニ右軍事の問題ヲ處理スベキ旨命ズルノ用意有之候帝國政府ニ於テ提出セラレタル要求ハ其ノ何レモ豫メ除外セラルルコトナカルベク且佛蘭西國軍當局ニ發セラルル訓令ハ右ノ點ニ付其ノ權限ヲ制限スルコトナカルヘキモノニ有之候

前記交渉ハ左記條件ニ依リ行ハルヘク候  
兩國軍司令官ハ軍人ノ名譽ニ掛ケ日本國軍ノ必要トスル所ノモノ及之ヲ満足セシメ得ベキ方法ヲ正確ニ知ラシムベキ情報ヲ交換スルモノトス右日本國軍ノ必要トスル所ノモノハ印度支那ニ境スル支那諸州ニ於ケル作戦行動ニ關スルモノニ限ラルルモノトス  
右情報交換アリタル後日本國軍ニ對スル所要ノ軍事の便宜供與ノ爲日本國及佛蘭西國軍當局間ニ相互信頼の接觸行ハルルモノトス  
佛蘭西國政府ハ日本國軍ニ提供セラルベキ各種便宜供與

ニ伴フ財政的負擔ハ何等之ヲ負ハザルベキモノトス右便宜供與ハ軍事占領ノ性質ヲ有スルモノニ非ズシテ嚴ニ作戦上ノ必要ニ限ラルルモノトシ佛蘭西國軍當局ノ仲介ニ依リ且其ノ監理ノ下ニ行ハルルモノトス

最後ニ帝國政府ハ自己ノ戦争行爲ニ依リ竝ニ日本國軍隊ノ存在自体ガ印度支那ニ誘致スルコトアルベキ敵部隊ノ行爲ニ依リ印度支那ノ蒙ルコトアルベキ損害ニ付賠償ノ責ニ任ズルコトヲ約スルモノトス

右貴翰ニ對スル回答トシテ本大臣ハ日本國政府ハ極東ニ於ケル佛蘭西國ノ權利及利益特ニ印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ノ全部ニ對スル佛蘭西國ノ主權ヲ尊重スルノ意向ヲ有スル旨竝ニ佛蘭西國政府ヨリ申越サレタル提議ハ之ヲ受諾シ且日本國ノ要望ニ満足ヲ與フルコトヲ目的トスル交渉カ遲滞ナク開始セラレ速ニ所期ノ目的カ達成セラルルコトヲ期待スルト共ニ佛蘭西國政府ヨリ爾今印度支那官憲ニ對シ右ノ爲必要ナル訓令ヲ發セラレンコトヲ希望スル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

本大臣ハ茲ニ重ねテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬 具

昭和十五年八月三十日

佛蘭西國特命全權大使

外務大臣 松岡 洋右

「シヤルル、アルセーヌ、アンリー」閣下

~~~~~

1835

昭和15年8月30日

松岡外務大臣より  
在ハノイ鈴木総領事、在ジュネーブ小  
林総領事他宛(電報)

仏印問題に関する往復書簡の交換後に行った

松岡外相口頭申入れをめぐるアンリ大使との

応酬振りについて

付記 右松岡外相口頭申入れ

本省 8月30日後11時0分発

合第一九三七號(極秘、至急)

往電合第一九三六號ニ關シ

書翰交換後本大臣ヨリ口頭ヲ以テ要旨別電合第一九三九號

ノ通「アンリー」大使ニ申入レ置ケリ

尙其ノ際右、ノ點ニ付大使ハ日本側要求ハ凡テ現地交渉事

項中ニ包含サレ居レリト言ヒタルニ依リ本大臣ハ右、ノ點

ハ今次ノ往復文書ニ依リ凡テ「カヴァ」サレ居ルモノナリ

ト應酬シ置ケリ又三ノ點ニ付テハ大使ハ書翰交換ノ次第ヲ  
本國政府ニ電報シ政府ヨリ現地ニ指令スル等ノ關係ヨリ三  
十一日迄ニ現地取極ヲ成立セシムルコトハ不可能ナリト述  
ベタルニ依リ、本大臣ハ大使ヨリモ取極成立等ノ次第ヲ直  
接佛印總督ニ電報アリ度ク實ハ取極成立ノ事實ガ蔣側ニ洩  
レ蔣ガ何等對抗措置ヲ執ルノ懸念無シトセザルニ付現地交  
渉急速妥結ノ要アル旨力説シタルニ大使モ之ニ同感ノ意ヲ  
表シタリ

尙大使ハ佛側モ本件取極成立ニ付テハ何等發表セザルコト  
トシ度キ旨述ベタルニ依リ本大臣之ニ同意セリ

現地交渉ニ付テハ軍側ヨリ西原少將ニ指令アル筈

本電及別電宛先 河内、廣東、南京、壽府

壽府ヨリ佛ニ轉電アリ度

編注 別電合第一九三九号は見当たらないが、口頭申入れにつ

いては本文書付記参照。

(付記)

八月三十日松岡大臣ヨリ「アンリー」大使ニ對シ

口頭ヲ以テ申入濟(後佛大使館參事官へ送達)

一、本貴翰中ニハ佛側ハ八月二十一日西歐亞局長ヨリ貴使ニ具体的内容ノ概略ヲ内示セル我方軍事的要求ヲ受諾スヘキ旨ノ明記ナキ處貴使ハ去ル二十五日大橋次官ニ對シ佛國トシテハ体面上右ノ旨ヲ文章ニ明記シ得サルモ實際上右要求ノ何レヲモ受諾スルコトニナリ居ル旨明言セラレシ趣ナルカ帝國政府トシテハ佛國政府ノ右言明ニ信賴シ本貴翰ヲ以テ御申越ノ次第ヲ受諾スルモノナリ

二、帝國政府ハ之ニテ我軍事的要求ハ佛印ニ於テ直ニ實現セラルヘキモノト思考スルモノナルカ日本軍ハ諸般ノ情勢上右要望ノ實現ヲ急キ居ル次第ニシテ軍中央ニ於テハ佛印經由蔣政權向物資輸送停止狀況視察委員長タル西原少將ヲシテ出先陸海軍最高指揮官代表ヲ兼ネシムルコト、シ同少將ニ對シ河内ニ於テ佛國側軍司令官トノ間ニ右我方要望實現ノ爲ノ現地取極ヲ成ルヘク速カニ、出來得レハ明日中ニ成立セシムル様訓令セリ依テ佛國側ニ於テモ佛印總督ニ對シ西歐亞局長ヨリ貴使ニ内示セル我方軍事的要求ハ實質的ニ受諾濟ノモノナルコトヲ通報シ大至急右取極ヲ成立セシムル様訓令方取計ハレ度シ

昭和十五年八月三十日

1836 昭和15年8月31日 在仏国沢田大使より 松岡外務大臣宛(電報)

仏印における軍事行動実施は現地での軍事協  
定成立後を希望する旨など仏国政府意向を同  
国外相表明について

ヴィシー 8月31日後発  
本省 9月2日前着

第七一〇號(極秘、館長符號扱)

八月三十一日「ツトエツチャ」外務大臣ノ求メニ應シ往訪シタル處同外務大臣ハ昨日佛印問題ニ關シ書翰ノ交換アリタルコトヲ告ケ只今「ベタン」元首ニモ之ヲ報告シタルカ同元首ヨリ同慶ニ堪エサルコト竝ニ之ヲ基礎トシテ日本側ニ於テモ佛印ヲ擁護シヤルノ立場ヲ取ラレ以テ新タナル日佛親善ノ出發點トシタキ旨特ニ依頼アリタリト語レリ 尙同外務大臣ヨリ佛國政府ノ希望トシテ左記三點傳達方併セ依頼セリ 一、軍事行動ニ付テハ當初ヨリ「シヨツク」ヲ與ヘサル爲事

ヲ穩カニ運ハシメラレタシ

三、軍事行動ハ現地ニ於テ軍事協定成立ノ後開始セラレタキ  
コト

三、支那大使ノ屢申入レ來タル所ニ依レハ支那軍隊ハ  
Cobang 前面ノ國境ニ集中シ居リ若シ日本軍佛印ニ足  
ヲ染ムルコトアラハ支那軍ハ直ニ國境ヲ突破スル意嚮ナ  
ル趣ニ付テハ日本軍側ニ於テ之ニ先シテ飛行機ニ依リ  
テ前進ヲ阻止セラレタキコト

右ニ對シ本使ヨリ第一ニ付テハ我方要求ハ既ニ極秘ニ内示  
濟ニシテ現地官憲ノ驚クコトモナカルヘシト述ヘタルニ外  
務大臣ハ右ハ承知ノ所ナルカ

行動ノ進行ニ連レテハ右内示ノ點以上ノコト迄モ協力セシ  
ムル積ナルニ依リ先ツ出發點ニ於テ事ノ穩ニ運フコトヲ希  
望スルナリト答ヘ第二點ニ關シ事急ヲ要スルニ鑑ミ軍事協  
定成立迄行動ヲ開始セサルコトハ約束困難ナリト認ムル旨  
ヲ述ヘタルニ外務大臣ハ現地軍憲ニ對シテハ本日午後中ニ  
モ訓令ヲ發スル積リニテ協定成立ノ爲決シテ手問取ラセサ  
ル積リニ付(明日中ニモ訓印スル様訓令スル積リナリ)第三  
者ニ口實ヲ與ヘサル爲是非共行動ハ協定成立ノ上ニテ開始

セラレンコトヲ希望スル次第ナリト説明シ

第三點ニ關シ支那側ニ如何ナル回答ヲ與ヘラレタルヤヲ尋  
ネタルニ外相ハ日本側トハ豫テ佛印ニ關スル協定ヲ遂クル  
爲話合中ナルモ未タ何等話シ得ル事態ニ達シ居ラストテ其  
ノ言分ヲ斥ケ居レリ斯クテ自分トシテハ日支事變ニ對シテ  
ハ表面ハ中立ノ立場ヲ裝ヒツツモ事實日本ノ「アリエ」ニ  
外ナラスト考ヘ居ル次第ニテ從テ支那軍ノ前進阻止ノ爲日  
本軍飛行機カ出動スル場合ニハ佛側飛行機モ之ニ協力セシ  
メル積リナリト答ヘタリ

